資料４

令和８年２月定例会（事前）
文教厚生委員会資料
教　育　委　員　会

# 第３回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

１　日　時　　令和７年１２月２５日（木）　午前１０時から正午まで

２　場　所　　徳島県庁　１０階 大会議室（徳島市万代町１丁目１番地）

３　出席者
（１）　委員　１６名中１５名出席（欠席１名）
（２）　県　　教育次長、教育創生課長　ほか

４　議　題
（１）拠点校のイメージについて
（２）国の動向について

５ 意見交換における主な発言概要
（１）拠点校のイメージについて
○拠点校に限定することなく、県内の全高校を対象として、実験は対面、理論はオンラインといった効率性と教育効果を考慮したオンラインの活用や反転授業の導入など、教育方法の在り方について検討する必要がある。

○拠点校と小規模校をセットで捉え、生徒が望む学び方に応じた選択肢を確保しつつ、探究活動や部活動の共同実施などを通じて、双方の規模の利点を活かした多様な学びを実現する必要がある。

○拠点校以外の小規模校にも独自の特色を持たせるとともに、小学校段階からの STEAM 教育の流れを確実に受け止める高校教育の在り方を検討すべきである。

○拠点校をはじめとした今後の高校の在り方については、より踏み込んだ具体的な検討を進めるべきである。例えば、実践的な学びの場の確保や施設の利活用など、地域の実情に即したアイデアを出し合う必要がある。

○拠点校については、まずは設置場所を優先的に決定すべきであり、その教育内容については、普通科と専門学科を併置する場合のカリキュラム上の課題など、検討を継続する必要がある。

○この度の国の補正予算において示された「パイロット校」との違いを明確にし、拠点校がいかなる課題解決を目指すのか、その狙いをシャープにする必要がある。

（２）国の動向について

○AI や DX といった時流を追うよりも、教育の不易を見極める必要がある。社会が激変する今こそ、産業競争力の源泉となり、自ら考え課題を発見する力の土台となる基礎学力の向上を、高校教育全体の共通テーマに据えるべきである。

○成績上位層のみならず、多様な課題を抱える生徒を含め、誰一人取り残さず、全員が輝ける学びの場を作る視点での議論が必要である。

○国の理系教育へのシフトに伴う数学・理科の教員確保に早急に対応し、全国的な人材獲得競争に備えるとともに、小中学校からの理数教育を充実させるべきである。

○国の「高校教育改革に関する基本方針」に基づく支援については、学区撤廃への対応や教育環境の公平性担保の観点から、小規模化や老朽化が顕著な県西部の教育環境の整備、及び専門高校の魅力化に向けて戦略的に活用すべきである。

（３）その他

○早期の適切な進路選択のため、合同説明会の開催や動画の活用等による情報発信の強化を図るとともに、小中高が密接に連携したキャリア教育を充実させる必要がある。

○進路選択においては、行きたい学校に行くという理想だけでなく、相応の学力が不可欠であるという現実を生徒・保護者が理解できるよう指導すべきである。

○地理的制約に縛られず、寮を整備してでも県内外から生徒が集まる特色ある「一番校」をつくるのか、本気で検討を進める必要がある。

○全国募集の安定化には、寮などの施設整備に加え、ハウスマスターやコーディネーター等の人的基盤の構築が不可欠であり、市町村の参画と連携を深めるべきである。

# 第４回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

１　日　時　　令和８年２月２日（月）　午後２時から午後４時まで

２　場　所　　徳島県庁　１０階 大会議室（徳島市万代町１丁目１番地）

３　出席者

（１）　委員　１６名中１５名出席（欠席１名）

（２）　県　　教育次長、教育創生課長　ほか

４　議　題

（１）１次取りまとめ（素案）について

（２）再編等基準について

（３）地域の拠点校設置について

５ 意見交換における主な発言概要

（１）１次取りまとめ（素案）について

○教育内容の充実については、国の動向や社会情勢の変化に合わせ、その都度、柔軟に対応や見直しができる旨の文言を加えるべきと考える。

○多様な主体との連携・協働などの記載内容において、「地域」と「市町村」の表記について整合性を図ってはどうか。

○「各校での学びがどのような将来に繋がるのか」を生徒や保護者がイメージできるような情報発信が必要である。また、Web 出願については、円滑な導入に向けて分かりやすい周知・広報に努めていただきたい。

○再編と配置については、「一定の学校規模を維持する」ことを目的にせず、生徒一人一人の資質･能力を最大限に伸ばすために学校規模の多様性を確保するといった表現にすべきと考える。

○本県の将来的な産業・就業構造の変化やエッセンシャルワーカー等の不足を見据え、普通科と専門学科のバランスも考慮に入れた定員設定を含め､戦略的な適正配置と高校教育の在り方を検討する必要がある。

○次回取りまとめに向け､より具体的な方向性を明確化できるよう検討する必要がある。

（２）再編等基準について

○魅力化推進校（仮称）の基準については、生徒数のみで判断せず、高校魅力化の成果が出るまでの時間軸も考慮し、柔軟な対応を検討する必要がある。

○魅力化推進校（仮称）については、市町村が支援を行う場合、県側も魅力化するために相応の支援を行うという「共助」の姿勢を明確にすべきと考える。

○「地域が高校を支援する」という捉え方ではなく、市町村が高校をまちづくりの核としてどのように位置付け、いかなる役割を期待するかという視点が必要である。

○再編等基準について、その目的や目標期間を明確に設定して議論すべきと考える。

（３）地域の拠点校設置について

※事務局で説明資料等を検討の上、次回以降、議論することとなった。

（４）その他

○オンラインを活用した柔軟な教育環境の整備や､大規模災害時に教育機能をどう維持するのかという広域的なリスク管理や相互補完の視点についても検討が必要である。

○国の補正予算による「高等学校教育改革促進基金」を、本県公立高校のさらなる特色化・魅力化に向けて最大限に活用できるよう、積極的に取り組んでいただきたい。

# 拠点校のイメージについて

## １　徳島県公立高校のあるべき姿

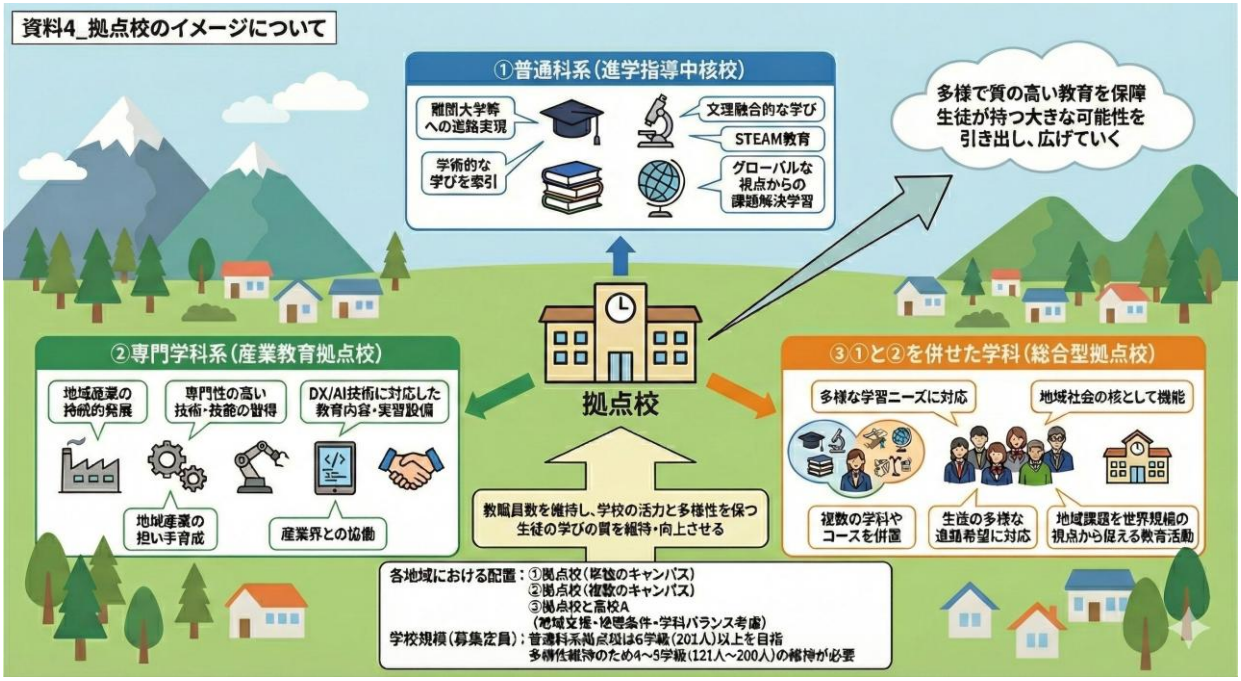
「徳島教育大綱」に示された基本方針「個性と国際性に富み、夢と志あふれる『人財』の育成」を目指し、県内のどの地域においても、生徒が持つ大きな可能性を引き出し、広げていく多様で質の高い教育を保障することが公立高校に求められる役割。

## ２　拠点校設置の必要性

・上記の役割を果たせるよう、各地域で多様な学習ニーズに対応できる教育環境を整備するため、拠点校※の設置が必要。

※拠点校とは、今後、一定の学校規模を確保することで、教職員数を維持し、学校の活力と多様性を保ちつつ、生徒の学びの質を維持・向上させる、各地域で中心的な役割を果たす学校。

（１）拠点校のイメージ




（２）学科

①普通科系（進学指導中核校）

・難関大学等への進路実現と学術的な学びを牽引。
・文理融合的な学び、STEAM 教育、グローバルな視点からの課題解決学習を推進。

②専門学科系（産業教育拠点校）

・地域産業の持続的発展と専門性の高い技術・技能の習得。
・DX/AI 技術に対応した教育内容･実習設備の整備。
・地域産業の担い手育成に向けた産業界との協働を推進。

③①と②を併せた学科（総合型拠点校）

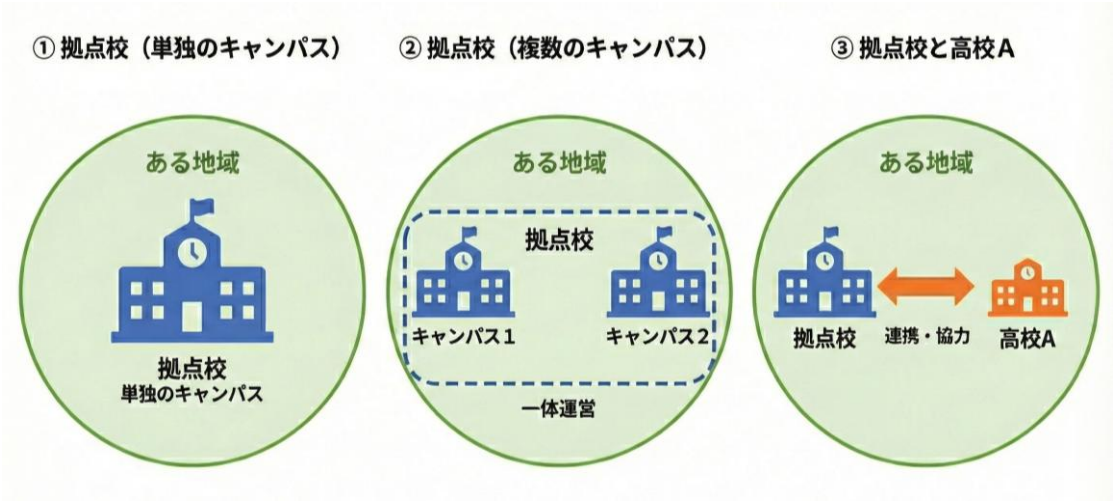
・多様な学習ニーズに対応し、地域社会の核として機能。
・複数の学科やコースを併置し、生徒の多様な進路希望に対応。
・地域課題を世界規模の視点から捉える教育活動を展開。

（３）各地域における配置

①拠点校（単独のキャンパス）

②拠点校（複数のキャンパス）
拠点校は、複数のキャンパスを有し、一体的に運営

③拠点校と高校Ａ　※地理的条件、学科のバランス、地域からの支援などを考慮
拠点校と高校Ａが連携・協力（オンライン活用等による教育内容の充実）




（４）学校規模（募集定員）

・普通科系の拠点校においては、多様な専門性を持つ教員配置を実現するため、他県事例を参考に６学級（201 人）以上を目指すべき。

・多様な選択科目や学校運営の活力を維持するため、４～５学級（121 人～200 人）の維持が必要。

# 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））　骨子
# ～2040 年に向けた N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール[1]構想～

## １．グランドデザインの背景

（社会状況の大きな変化「2040 年問題」）

・2040 年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップ、理系人材の不足の可能性。

・高校生が学校で「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、以下３つの視点の下で高校改革に取り組むとともに、高校から大学・大学院に至るまでの一貫した教育改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材育成を実現。

＜視点１＞不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AI に代替されない能力や個性の伸長

＜視点２＞我が国の経済・社会の発展を支える人材育成

＜視点３＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

・専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた特色化・魅力化、地理的アクセス・多様な学びの確保を通じた高校教育の転換により、高校が、未来の労働市場、地方経済、イノベーションを興す力を底上げする起点としての役割を果たし、高齢化や人口減少といった課題に直面している我が国が社会全体で課題を解決する構造へと変化を遂げ、持続的に発展する日本社会を実現。

## ２．高校改革の方向性～2040 年に向けた高校の姿～

### （１）＜視点１＞　AI に代替されない能力や個性の伸長

・義務教育の成果を更に発展させるとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成。

・AI に代替されない能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力等）の育成、探究的な学びや実践的な学びへの学習観の転換、主体的に学び人生を切り拓く「生徒を主語にした」教育を推進。

・イノベーション創出に向けた「新たな知」を生み出すため、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養が必要。

（実現するための取組の方向性）

・個々の生徒の学習ニーズへの対応等に向けた教育課程の柔軟化（教科・科目の柔軟な組み換えを含む。）やデジタル技術の活用。

・校長のリーダーシップの下でのスクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づく学校運営や教育活動の具体化、生徒の学びの成果・課題の把握と教育活動の改善への反映、公表の仕組みの構築。

・高校入試における多様な背景を有する生徒の特性等の多面的評価。

---

[1] N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

・デジタル技術の活用等も含め高校までの学びの成果を適切に評価できる大学入試の検討や、主体的・自律的に学修するための環境構築、厳格な成績評価等による「出口における質保証」への改善を大学に促し、高校教育から大学教育までを通じた一貫した改革。

**（２）＜視点２＞　我が国の社会・経済の発展を支える人材育成**

・2040 年には、いわゆる文系人材の余剰、いわゆる理系人材の不足、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足が懸念。産業イノベーション人材育成の必要。グローバル化も進展する中、こうした人材への国際的な資質・能力の涵養や、世界で活躍できる人材の育成も重要。
・AI 等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも妥当しなくなりつつあるとの危機意識を共有し、進学希望者の理解、保護者や学校関係者の意識改革が必要。
・新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化が必要。

**（実現するための取組の方向性）**

・理数系やDX・AI に関する関心の向上、探究・文理横断・実践的な学び、Society5.0 に対応した STEAM 教育、専門高校における地域の産業界との連携等に向けた指導運営体制の充実。
・理数・デジタルや文系的素養、DX・AI を使いこなす情報活用能力を身に付けた上で、社会で活躍するロールモデルを生徒自身が感じながら学ぶことができる環境の構築。
・普通科に偏った学科構成の見直しや産業界の伴走支援による専門高校の機能強化・高度化等の取組と、大学教育における理工・デジタル系人材育成の強化等の取組を有機的に連携・連動。
・国内外の大学・高校等とも連携しながら、社会的課題の解決に向きあう学びや、留学生の派遣や受入れを通じたグローバル人材の育成。

**（３）＜視点３＞　一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保**

・少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保が必要。
・不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする児童生徒の増加、通信制課程の生徒の大幅増加を踏まえ、高校のいずれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢の保障が必要。

**（実現するための取組の方向性）**

・全国どこにいても学びが保障されるよう、生徒の地理的アクセスの確保に留意しつつ一定規模の確保、小規模校を含む学校間連携や遠隔授業の推進。
・通信制高校の管理運営の適正化や教育の質の確保・向上。
・個々の生徒の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実、日本語指導が必要な生徒に対する指導体制の整備。

※視点１～３を踏まえ、例えば、いわゆる理系人材の育成や専門高校における人材育成等に関する目標設定を検討する。

## ３．高校教育の充実に向けた支援

### （１）グランドデザインの中核となる高校支援

（基本認識）

・公立高校は、多様な背景を有する生徒の様々な学習ニーズ、地域が求める人材、学校の地理的状況などの観点から、地域における高校教育の普及や機会均等を図る重要な存在。
・高等学校等就学支援金制度の見直しによる専門高校を含む公立高校への影響を考慮し、公立高校への支援を拡充。

（実行計画の策定・実施及び支援方策）

・本グランドデザインを踏まえ、都道府県において「高等学校教育改革実行計画」（以下「実行計画」という。）を策定し、安定財源を確保した上で、令和９年度に新たに創設する「高等学校教育改革交付金（仮称）」（以下「交付金」という。）等により支援。
・実行計画の策定に当たっては、都道府県教育委員会が中心となることが想定されるが、都道府県知事等の首長や関係部局、地域の関係者や産業界と十分に連携・協働。総合教育会議等を活用し、幅広い意見等を聞いて策定。
・実行計画は、主として公立高校の取組を記載することを想定しているが、都道府県の判断により、私立高校の取組を記載することも可能。
・交付金の創設に先立ち、パイロットケースとして、産業イノベーション人材の育成に向け、アドバンスト・エッセンシャルワーカーを育成するための実践的で高度な学びや、理数系人材を育成するための文理融合・探究的な学び、地理的アクセスを踏まえた多様な学びを先導する高校を創設するため、都道府県に基金を設置し、改革を牽引。その際、国際的な資質・能力を有するグローバル人材の育成や、高校生の多様な学びを広く支援するため、学校と地域が連携した学力向上・学習支援や域内の高校への取組・成果の共有等にも取り組む。
・高等専門学校の新設（専門高校の高等専門学校への転換を含む。）は、国の「大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」等の支援により促進。

（交付金の対象となる取組及び留意点等）

・交付金の対象となる取組は以下に示すものを基本とし、計画の具体化に当たっては、「２．高校改革の方向性」における視点１～３を踏まえたものであることが前提。
　① 専門高校の機能強化・高度化（産業界の伴走支援を受けながら行う教育課程の刷新・開発、先端分野の専門的な指導等を通じた地域産業を支える人材育成の取組等）
　② 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化（理数系教育、学際的・複合的な学問分野に即した学び等に重点を置くなど、学校の創意工夫に基づき、教育課程等の改革を行う取組等）
　③ 地理的アクセス・多様な学びの確保（学校規模・配置の適正化、学校間連携や遠隔授業の促進等）
　※学校と地域が連携した学力向上・学習支援による高校生の学びの支援も対象。
・交付金の運用に当たっては、各都道府県が取り組む高校改革に係る進捗管理や評価・改善の状況を適切に把握し、定期的な評価・公表を実施することが必要。

## （２）高校教育における個人支援の拡充

（基本方針）

・いわゆる高校無償化の詳細な制度設計や、低中所得層への高校生等奨学給付金の拡充については、「経済財政運営と改革の基本方針 2025」（令和７年６月 13 日閣議決定）や、「三党合意に基づく令和８年度以降の高校教育等の振興方策について」（令和７年 10 月 29 日）を踏まえ、その具体化を検討。

（支給方法の取扱い）

・高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金の申請手続について、地方分権提案等を踏まえて申請手続の更なるデジタル化を検討し、手続の簡素化による負担を軽減。

・いわゆる高校無償化については、国民の様々な意見や新たな制度の実施状況等の分析等を踏まえて、３年以内の期間に十分な検証を行った上で、必要な制度の見直しを実施。

# 高等学校教育改革促進基金の創設
# ～N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額（案）　2,955億円

文部科学省

※N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

**「強い経済」を実現する総合経済対策　（令和7年11月21日　閣議決定）　抜粋**

第２章　「強い日本経済実現」に向けた具体的施策　第１節　生活の安全保障・物価高への対応　（６）公教育の再生・教育無償化への対応　（教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から 2025 年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン 2040（仮称）」に沿った**緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援**する。

**課題**

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念**されるところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要。**
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。**

**事業内容**

## ①産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業

令和7年度補正予算額（案）2,950億円　支援期間：3年程度

**各都道府県に基金を設置**し、類型に応じた
**高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及**する。

**改革先導校の類型**

### アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

### 理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生みだす力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

### 多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要。
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした**学びや**遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

**取組内容例**

学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。

- 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
- 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
- 域内の教育環境向上に貢献する取組（遠隔授業、教員研修拠点等）
- グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

**事業スキーム**

文部科学省 → 基金造成経費を交付 → 都道府県

※都道府県事務費も措置

## ②高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業

令和7年度補正予算額（案）５億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

| 対象 | ①都道府県<br>②民間 | 補助率等 | ①10分の10 | 補助対象経費 | ①改革先導拠点の創出に係る経費（人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等）<br>②高校教育改革加速に係る伴走経費（人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等） |
|---|---|---|---|---|---|

（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）

# 徳島県公立高等学校の在り方について

## ＜1次取りまとめ（素案）＞

令和8年__月

徳島県公立高等学校の在り方検討会議

目　次

はじめに

１　本県公立高等学校に求められる役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　公立高等学校の在り方に関する３つの視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（１）さらなる特色化・魅力化の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）教育の質を維持･向上させる学校規模や配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（３）入学者選抜制度の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

３　検討の経緯等（取りまとめの根拠と多角的な意見の集約）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

参考資料

資料１　県内中学３年の生徒数の推移（予測）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

資料２　県内中学３年の生徒数の地域別推移（予測）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

資料３　高等学校・中等教育学校配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

資料４　公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・14

資料５　高校生と教育長によるアイデアソン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

資料６　公立高等学校の在り方に関するアンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

資料７　公立高校のあり方に関するタウンミーティングでの主な意見・・・・・・・・・・・・・・・・28

資料８　徳島県公立高等学校の在り方検討会議開催経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

資料９　徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

資料10　徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

## はじめに

国においては、令和３年１月に中央教育審議会が答申した「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」において、新時代に対応した高等学校教育の在り方が示された。これを受け、文部科学省はスクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定、普通科改革などを進めてきた。さらに、令和７年１１月には「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））」骨子を公表し、理数系人材の育成や Society 5.0 に対応した STEAM 教育の推進、専門高校の高度化など、これからの時代を担う人材育成の起点としての役割を高校に求めている。

本県に目を向けると、人口減少と少子高齢化の進行は極めて深刻であり、１５年後には県内の中学３年の生徒数が現在より約４０％減少することが見込まれている。この急激な生徒数の減少に伴う学校の小規模化に加え、私学無償化等の動向を受けた都市部の私立高校や私立広域通信制高校への生徒流出も懸念されており、多様な生徒が切磋琢磨する環境や、充実した教育課程の維持に深刻な影響を及ぼすことが想定される。本県ではこれまで、主に専門高校の再編統合等を通じ、社会情勢の変化に応じた段階的な教育環境の整備に取り組んできたが、急激な産業構造の変化や地域社会を支えるアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成といった新たな視点も踏まえれば、次なるステージへの改革が喫緊の課題となっている。

こうした歴史的な転換期にあたり、徳島県教育委員会は、受検機会の公平性などの観点から、令和１１年度入学者選抜から県立高校普通科の通学区域を県内全域とする方針を決定した。しかし、単なる制度の廃止は特定の高校への志願者の集中を招き、結果として地域間の格差を助長する懸念もある。居住地域に左右されない教育機会の保障を実現するためには、県内のどこに住んでいても多様で質の高い教育を受けられる体制、すなわち「行きたいと思える魅力ある学校」が通学可能範囲に存在する環境を構築しなければならない。

本検討会議は、こうした課題を受け止め、１０年、２０年先を見据えた「本県公立高等学校の目指すべき将来像」をあらゆる角度から検討するために設置された。全４回にわたる会議では、中高生、保護者、教職員を対象とし、２万人を超える回答をいただいたアンケート調査や、県内８地域でのタウンミーティング、高校生と教育長によるアイデアソン、さらには産業界からの具体的な提言など、広範な県民の皆様の意見をお聞きし、議論を進めてきた。

本会議においては、これらの多様な意見を踏まえ、主に以下の３点について多角的に議論を重ねてきた。
（１）公立高等学校のさらなる特色化・魅力化に関する事項
（２）公立高等学校の学校規模や配置に関する事項
（３）その他公立高等学校の在り方に関連して検討が必要な事項

この度、これまでの検討結果を「１次取りまとめ」として報告する。本県高校教育が直面する危機の大きさを全県で共有し、生徒一人一人の無限の可能性を広げていくため、最終報告を待つことなく、実施可能な施策については直ちに具体化し着手していくことを期待する。

## 1 本県公立高等学校に求められる役割

**生徒一人一人の可能性を最大化する、徳島ならではの多様で質の高い教育環境の実現**

本県の公立高校は、豊かな自然、伝統文化、さらには先端技術を有する産業といった地域資源を最大限に活用しつつ、高校生の個性の伸長や主体性の涵養を通じて、生徒一人一人の「やりたいこと」や「夢・目標」を尊重し、その資質・能力を十分に伸ばしきるとともに、本県産業・社会の持続可能な発展を支える人材を育成する役割を担うことが期待される。

加速する人口減少という厳しい現実を、一人一人に深く寄り添う「質の高い教育」への転換点と捉え直し、生徒自身が豊かな人生を送り、地域社会の担い手としてより良い社会を共に創り出していくための可能性を最大化する学びを、全県で保障していく必要がある。

## 2 公立高等学校の在り方に関する3つの視点

上記の役割を果たすため、本取りまとめでは、さらなる特色化・魅力化の推進、教育の質を維持・向上させる学校規模や配置、及び入学者選抜制度の見直しの３点を議論の柱に据え、持続可能な教育環境の構築を目指すこととしている。

### （1）さらなる特色化･魅力化の推進

徳島の特色を生かし、生徒が目的意識を持って「行きたい」と思える魅力ある学びを提供することが望ましい。

**① 自律的な学びを通じた確かな学力の定着と次世代人材の育成**

・主体的・対話的で深い学びを通じ、身に付けた知識を応用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成を推進する必要がある。

・個々の可能性を広げる土台として、基礎学力の定着を全県共通のテーマに据えるべきと考える。

・文理融合の視点と国際性を備え、社会課題を解決する力を養う STEAM 教育やグローカルな学びを導入した新学科・コースの設置等を積極的に検討する必要がある。

・高度な専門性と先端技術を習得した産業人材のみならず、地域の医療や教育を支える人材を育成する体制の確立が必要である。

・産業界等との実効性のある連携により、学びと社会の繋がりを実感させることで主体的・自律的に学ぶ意欲を引き出す取組が重要である。

**② 個々の資質を伸ばす教育環境の構築と魅力ある学校の創出**

・生徒が主体的に生き生きと学び、協働と創造を生み出すことができる、機能的で洗練された教育環境を整備する必要がある。

・生徒の「やりたいこと」や「夢・目標」に向けた試行錯誤のプロセスを尊重し、時間的余裕を確保するとともに、デジタル技術の活用や各学校の特色ある教育課程の編成等により、個々の可能性を最大化させる教育環境を構築することが望ましい。

・地域的な教育格差を解消するため、県西部・南部の高校等における施設・設備の充実を優先的に推進することが望まれる。

・多様な背景を持つ生徒に対し、誰一人取り残されることなく、特性に応じた柔軟な学びの場を保障する必要がある。

・リーディングハイスクールの取組を深化させ、学力、スポーツ、文化芸術等の分野において学校ごとの際立った特色を明確化するための重点的な支援が必要である。

・徳島ならではの教育資源を生かし、寮整備や地域と連携した支援体制の構築を通じて県内外から生徒が集まり、多様な交流を創出する取組を継続する必要がある。

### ③ 多様な主体との連携・協働（地域、大学、企業）

・高校魅力化に不可欠なコーディネーターの配置に向け、県教委、地元自治体、学校が三位一体となった実効性のある支援・受入体制を構築する必要がある。

・大学や企業との協働を通じ、地域や社会を知る、学校内では完結しない体験活動を充実させ、徳島でしか得られない実践的・専門的な学びを提供することが望ましい。

・「人材育成は社会全体の課題」との認識を共有し、地域が学校を支え、学校が地域を活性化させる循環型モデルを構築する必要がある。

・各学校の学校運営協議会をより一層効果的に機能させるとともに、学校と地域が目標を共有し、協働体制を構築・運用していくことが望ましい。

### ④ 持続可能な推進体制の構築

・私立高校の授業料実質無償化等の動向により、県外や私立広域通信制高校への生徒流出が懸念される中、公立高校における教育の質の担保と、その魅力を最大限に引き出すための抜本的な支援拡充が求められる。

・特色化・魅力化の鍵を握る人的・物的支援を拡充するため、継続的かつ戦略的な財政措置を検討する必要がある。

・国の予算活用に加え、市町村の参画や産業界との様々な連携による外部活力を積極的に取り入れ、学校の持続可能な運営を支える体制を確立することが期待される。

・教員が本来担うべき業務に専念できるよう、業務の精選や外部人材の活用による働き方改革と負担軽減を推進し、教職員がいきいきと働ける環境を整える必要がある。

### ⑤ 自律的な学びを促すキャリア教育と各校の特色に関する情報発信の強化

・小中高が連携したキャリア教育を充実させるとともに、各校の特色・魅力を中学生や保護者に伝わる形で戦略的に発信する必要がある。

・行きたい学校への挑戦には相応の学力が不可欠であるという現実についても、生徒や保護者の理解を深め、自律的に学べるよう丁寧な指導に努めることが望ましい。

・生徒が自らの可能性を信じ、主体的に進路を選択できるよう、一人一人の状況に応じた伴走型支援を強化する必要がある。

## （2）教育の質を維持･向上させる学校規模や配置

「どこに住んでいても質の高い教育」を受けられる持続可能な体制を構築することが望ましい。

### ① 将来を見据えた戦略的な再編と持続可能な配置

・現在の高校配置の現状を直視し、全県的な視点から教育効果を最大化するための計画的な学校規模の見直しと再編を推進する必要がある。

・各地域に一定の学校規模を維持する学校を配置するため、公平性と全県的な視点を踏まえた明確な再編等基準を設定する必要がある。

### ② 地域の実情と支援体制に応じたきめ細かな再編等基準の運用

・基準の適用については、地域の実情を鑑み、全県一律とせず、通学時間や地域唯一の高校といった地理的条件、学校の特性等に応じてきめ細かく設定･運用することが望まれる。

・市町村が県と連携して人や予算を投じて学校を支える「共助」の意欲を、存続や魅力化の重要な判断基準の一つとして考慮する必要がある。

・教育的観点からの多様な学校規模の共存と、財政的観点からの経営資源の最適配分を両立させ、地域全体で教育機能を維持・発展させる視点を堅持する必要がある。

### ③ 地域における「拠点校」の創出と目的の明確化

・県西部・南部に教育の質を担保する拠点校を優先的に設置し、多様な人間関係の中で切磋琢磨できる４～５学級規模の維持を目指すことが望ましい。

・拠点校の狙いを明確にし、地域の実情に応じた柔軟な形態を検討した上で、設置場所を優先的に決定する必要がある。

### ④ 拠点校整備の優先と多様な学びの選択肢の確保

・公平性の観点から県西部・南部での拠点校整備を優先し、ICT 環境や施設・設備の充実を先行させることが期待される。

・拠点校と小規模校をセットで捉え、オンラインの活用や学校教育活動の共同実施を通じ、多様な学びの選択肢を確保する必要がある。

・小規模校においても独自の特色を持たせ、拠点校とは異なる魅力を発揮できる教育体制を構築することが望ましい。

## （3）入学者選抜制度の見直し

通学区域制の見直しと整合性を図りつつ、生徒一人一人が主体的に進路を選択し、自己実現につながる受検ができるよう、入学者選抜制度を見直す必要がある。

### ① 志望校を主体的に選択できる入学者選抜制度の導入

・学区撤廃後の志願動向の変化を見据え、育成型選抜の見直しや複数校志願など、生徒の主体的な進路選択に資する入試制度を構築することが望ましい。

・制度設計に当たっては、制度の分かりやすさや学校現場の負担にも配慮しつつ、受検機会の拡大と公平性の両立を図ることが重要である。

・現行の育成型選抜は運動部中心に偏っており、より多様な能力や主体的な活動を評価し、多くの生徒がチャレンジできる仕組みが必要である。

### ② 生徒・保護者の多様化したニーズを踏まえた制度設計

・一般選抜における学力検査と調査書との評価バランスを整理するなど、各高等学校のスクール・ポリシーをより一般選抜に反映できる制度とすることが重要である。

・制度設計に当たっては、評価の公平性・透明性・信頼性を確保し、志願者・保護者が理解しやすい制度となるよう、評価の考え方や情報提供の在り方を併せて整理する必要がある。

### ③ Web 出願システム導入によるデジタル化の推進

・志願者・保護者の利便性の向上及び中学校・高等学校の入試業務における負担軽減を図るため、個人情報の適切な管理を徹底した上で、Web 出願システムをできるだけ早期に導入すべきである。

・Web 出願システムの導入により、生徒が自ら出願手続きを行い進路選択について主体的に考える契機となることも考えられるため、自立に向けた意識・行動を促すことが期待される。

## ３ 検討の経緯等（取りまとめの根拠と多角的な意見の集約）

本取りまとめの各項目は、検討会議委員による議論に加え、アンケート結果や高校生と教育長によるアイデアソン、タウンミーティング、総合教育会議での主な意見などを多角的に集約したものである。なお、入学者選抜制度の見直しについては、別途「入試制度部会」を設置し、専門的な視点から集中的に議論を行った。

### （1）さらなる特色化･魅力化の推進

**【背景･調査結果等】**

**アイデアソン：** 高校生から「自分の興味を追求できる自由な時間（余白）」の確保を求める提案や、自分の個性に特化した専門設備の整備に関する意見があった。

**アンケート結果：** 生徒・保護者の全属性において「総合的・探究的な学び」への期待が最も高い。一方で保護者は具体的な進路に直結する「学力をしっかり伸ばせる高校」を重視している。また、各校の特色を伝える戦略的な情報発信の必要性が示されている。

**タウンミーティング：** 一部の地域では、新校舎の建設や老朽化した教育環境の改善を求める声が強く、コーディネーター人材の確保・配置を求める意見も出された。また、地域や企業と連携した主体的な学びを重要視する傾向がうかがえたほか、将来の就職を見据えた産業界との連携強化に加え、夢や目標を見出せる体験型の学びの充実を望む声も寄せられた。

**総合教育会議：** 現在の学校教育と社会ニーズのズレが指摘され、正解のない課題に対し自ら選択と試行錯誤を繰り返す人材育成の必要性が議論された。社会経験を通じて生徒の学びへの意識やモチベーションを向上させる取組が求められている。

#### ① 自律的な学びを通じた確かな学力の定着と次世代人材の育成

**【委員の主な意見】**

○産業競争力の源泉となる基礎学力の向上を、高校教育全体の共通テーマに据えるべきと考える。単に時流を追うのではなく教育の不易を見極め、学力向上を特色化・魅力化の最優先課題として位置付ける必要がある。

○生徒一人一人の夢や目標を実現できるよう学びを支援し、必要な学力や技能を身に付けられる環境を整えるべきと考える。また、多様な体験活動を通じて、社会に溶け込む力を培う必要がある。

○日本の高校生には、「今日頑張らなくても明日何も変わらない」という感覚が根強い。地域や産業界等と連携した実践的な体験の機会をつくり、目的意識を持って学ぶ意欲を育むことが重要である。

○既存の特色ある取組を明確に打ち出すため、新学科･コースの設置を検討する必要がある。その際には、総合的･探究的な学びや STEAM 教育に加え、地域課題を世界規模の視点から解決策を考えるグローカルな学びを重視すべきと考える。

○各地域の教育及び医療を担う人材の育成のために、鳴門高校の取組（Education プログラム）や他県の事例を参考に、学びの機会確保を検討することが期待される。

### ② 個々の資質を伸ばす教育環境の構築と魅力ある学校の創出

【委員の主な意見】

○高校の課題は教育の枠組みに留まらず、経済界等社会全体で危機感を共有すべき課題である。人口減少や将来の産業構造の変化、エッセンシャルワーカー不足への対応といった視点を持って本気で取り組む必要がある。

○各高校の特色を際立たせ、生徒の「やりたいこと」を丁寧に捉えながら、資質・能力を十分に伸ばし切る高校づくりが重要である。生徒個々の意欲を尊重し、その可能性を最大化させる教育環境の構築が期待される。

○地理的制約に縛られず、寮を整備してでも県内外から生徒が集まる全国屈指の特色ある高校をつくるのか、本気で検討を進める必要がある。海部高校の先行事例に見られるような多様な背景を持つ生徒同士の交流が、生徒の成長に繋がると考えられる。

○校舎の整備状況や高校無償化、学区撤廃の影響を踏まえ、県西部・南部の高校の施設・設備の充実に優先的に取り組むべきと考える。地域的な教育環境の格差を是正し、魅力ある学びの拠点を構築する必要がある。

○全国募集の安定化には、寮などの施設整備に加え、ハウスマスターやコーディネーター等の人的基盤の構築が不可欠である。市町村の参画と連携を深め、外部人材を活用しながら地域全体で生徒を支える体制を確立することが期待される。

### ③ 多様な主体との連携・協働（地域、大学、企業）

【委員の主な意見】

○全国の先進事例が示すように、高校魅力化を推進するには、コーディネーターの配置が不可欠である。本県においても、県教委と地元自治体が連携して、学校と地域をつなぐコーディネーターが配置できる体制の構築が望まれる。

○徳島市内の普通科高校の教育課程には、新しい取組を行うだけの時間的余裕が少ないと感じる。学校の先生、コーディネーター、県や地元自治体といった多様な関係者が、どのような学びを目指すのか、現実的に考える必要がある。

○地域との連携・協働を進める上で、コミュニティ・スクールを効果的に機能させることが重要である。学校運営協議会を、子どもたちのために何ができるかという当事者意識を持って話し合える場にするべきと考える。

### ④ 持続可能な推進体制の構築

【委員の主な意見】

○学校現場では、働き方改革が進められているが、さらなる特色化・魅力化を進めるための人的・物的な支援が不足している。コーディネーターの配置に係る予算も含め、財政支援策の検討を進める必要がある。

○本県では、スポーツ、文化芸術、学力の各分野でのリーディングハイスクールがそれぞれ指定されており、それらの学校の取組をさらに充実させるためには継続的な支援が必要である。

○特色化・魅力化の鍵は予算化にあり、全国の事例から、教育資源を確保するためには、国の予算活用や市町村の参画、産業界との連携が必要である。

### ⑤ 自律的な学びを促すキャリア教育と各校の特色に関する情報発信の強化

【委員の主な意見】

○生徒が自らの将来を見据え、目的意識を持って高校を選択できるよう、小･中学校からのキャリア教育が重要である。また、各高校の取組が中学生や保護者などに十分に伝わる戦略的かつ効果的な情報発信を強化すべきと考える。

○早期の適切な進路選択のため､合同説明会の開催や動画コンテンツの活用等による情報発信の強化を図るとともに､小中高が密接に連携したキャリア教育を充実させる必要がある。

○進路選択にあたっては､行きたい学校への挑戦を尊重しつつ､その志望の実現には相応の学力を積み上げることが不可欠であるという実態を理解させ､生徒･保護者が目標と現在の学習状況を見つめ直し､目標達成に向けた自律的な学びへとつなげられるよう丁寧な指導に努めることが望ましい。

## （2）教育の質を維持･向上させる学校規模や配置

【背景･調査結果等】

**アイデアソン：** 高校生から「地理的制約を越えた学びの選択肢を確保するため、ICTを活用した他校との合同授業や高校の枠を越えた部活動の仕組み」に関する提案があった。

**アンケート結果：** 望ましい学級数は「４～５学級」が中心的回答だが、地域差も見られる。通学時間は「1 時間未満」を許容する層が最大である。

**タウンミーティング：** 一部の地域では「郡市に最低一つは存続を」との強い要望や、地域唯一の高校を存続させつつ特色を持たせる意見が出された。また、一定の集団規模を確保した魅力ある学校の整備（拠点整備）を求める声も上がった。

### ① 将来を見据えた戦略的な再編と持続可能な配置

【委員の主な意見】

○公立高校として、進路実現に必要な最低限の選択科目や、指導体制を保障するとともに、対面での日常的な集団生活において表現力や対人関係スキル等を育成するには、一定の学校規模が必要である。

○各地域の生徒数がさらに減少する中、現在の高校配置を維持するのは難しい。限られた教育資源を、戦略的に投入すべきであることから、学校規模や再編に関する基準等の設定が必要である。

○教育的観点からは学校規模は多様であっていいが､財政的観点から経営資源をどう振り分けるかという現実的な課題があり、両面からの検討が必要である。

### ② 地域の実情と支援体制に応じたきめ細かな再編等基準の運用

【委員の主な意見】

○基準については、県下一律ではなく、地理的条件に加え、市町村が県と連携して人や予算を投じて学校を支える協力体制の構築を、重要な判断基準とすべきと考える。

○通学可能な範囲に小規模校もあれば一定規模の学校もあるといったように、学校規模についての多様性が確保されることが望ましい。

### ③ 地域における「拠点校」の創出と目的の明確化

【委員の主な意見】

○拠点校をはじめとした今後の高校の在り方については、実践的な学びの場の確保や施設の利活用など、地域の実情に即したアイデアを出し合う、より踏み込んだ具体的な検討を進める必要がある。

○拠点校の規模については、切磋琢磨できる多様な人間関係を維持するため、１学年４～５学級規模の維持が望ましい。

○拠点校については、まずは設置場所を優先的に決定すべきである。教育内容（普通科と専門学科の併置等）については検討を継続する必要がある。

○国の補正予算で示された「パイロット校」との違いを明確にし、拠点校がいかなる課題解決を目指すのか、その狙いを明確化する必要がある。

○拠点校が地域の教育の拠点となるのであれば、専門学科の導入や教育活動を支える教員の適正な配置を含めた検討が必要である。

### ④ 拠点校整備の優先と多様な学びの選択肢の確保

【委員の主な意見】

○どこに居住していても、通学範囲に行きたい学校があることを実現できるよう、拠点校を各地域に配置すべきと考える。特に教育機会の公平性の観点から県西部・南部での整備が必要であり、学校規模は１学年４～５学級の維持が望ましい。

○拠点校化は単なる数合わせのための廃止ではなく、新キャンパス整備や複数キャンパス制など地域の実情に応じた最適な方法を選択すべきと考える。具体的には、単独校による拠点校化のみならず複数校の一体的運営や小規模校との連携など、柔軟な形態を検討する必要がある。

○拠点校化の議論に限定することなく全高校を対象として、実験・実習における対面ならではの実践的な学びと、理論学習等におけるオンラインの利便性を生かした、個別最適な学びを組み合わせた次代の教育方法の在り方について検討する必要がある。

○拠点校と小規模校を一体的に捉え、探究活動や部活動の共同実施等を通じて、拠点校の集団規模と小規模校の機動性という双方の規模の利点を生かした多様な学びを実現する必要がある。

○拠点校以外の小規模校にも独自の特色を持たせるとともに、小学校段階からの STEAM 教育の流れを確実に受け止める高校教育の在り方を検討することが望ましい。

## （3）入学者選抜制度の見直し

### ① 志望校を主体的に選択できる入学者選抜制度の導入

**【委員の主な意見】**

○通学区域制に関する有識者会議からの「複数回受検」の提言の趣旨は、学区撤廃で選択が広がる中、一般選抜における特定の高等学校への志願集中による不合格時に再挑戦できる機会の担保であると考える。

○生徒が学びたい高等学校へ出願できる方式（単願・併願、デジタル併願制［DA 方式〔受入保留アルゴリズム〕等］）や複数校選抜の枠組みを含めた検討が必要である。

○現行の育成型選抜は「運動部中心」に偏っており、特定の能力をもつ生徒にしか受検機会がないため、中高接続の観点からもより多様な能力や主体的な活動を評価でき、より多くの生徒がチャレンジできる仕組みづくりが必要である。

○学区撤廃により、志願者の動向が大きく変わることも予想されることから、一般選抜に加え、第２次募集選抜についても検討が必要である。

○現行は「育成型選抜・一般選抜・第２次募集選抜」の３回実施で、年明けから３月末までの高等学校における在校生への教育の質・量の確保や、中学校における進路指導の準備期間から、単純な回数増は困難である。

○生徒の多様な能力や主体的な活動を評価するため、運動分野の枠を残しつつ、他の分野を拡大するなど、より生徒が希望できる方向で検討すべきと考える。

○現在の育成型選抜における活動重視枠の募集人員を各高等学校の特色（スクール・ポリシー）に応じて、学校裁量で枠を変動させても良いと考える。

○育成型選抜と一般選抜の日程を一本化する場合は、出願手続や進路面談等の業務が短期間に集中して中学校・高等学校双方の事務負担が増大するおそれがあるほか、育成型選抜の実施時期が後ろ倒しとなる場合には、運動分野の志願者が県外や私立へ流出する懸念もある。

### ② 生徒・保護者の多様化したニーズを踏まえた制度設計

**【委員の主な意見】**

○学校が自校の特色や求める生徒像を明確に示し、生徒を受け入れる仕組みの一層の充実を図るべき。併せて、生徒が強みを軸に出願できる制度設計とし、多様な資質・能力を適切に評価すべきと考える。

○調査書に記載すべき項目は、教育機会確保の観点から不登校等を理由に受検生が不利にならないよう、真に必要な事項に精選し、公平で実効的な内容となるよう慎重に検討するべきと考える。

○調査書と学力検査の重み付けや評価バランスは、今後の併願制の検討における現実的かつ重要な課題である。

③ Web 出願システム導入によるデジタル化の推進

【委員の主な意見】

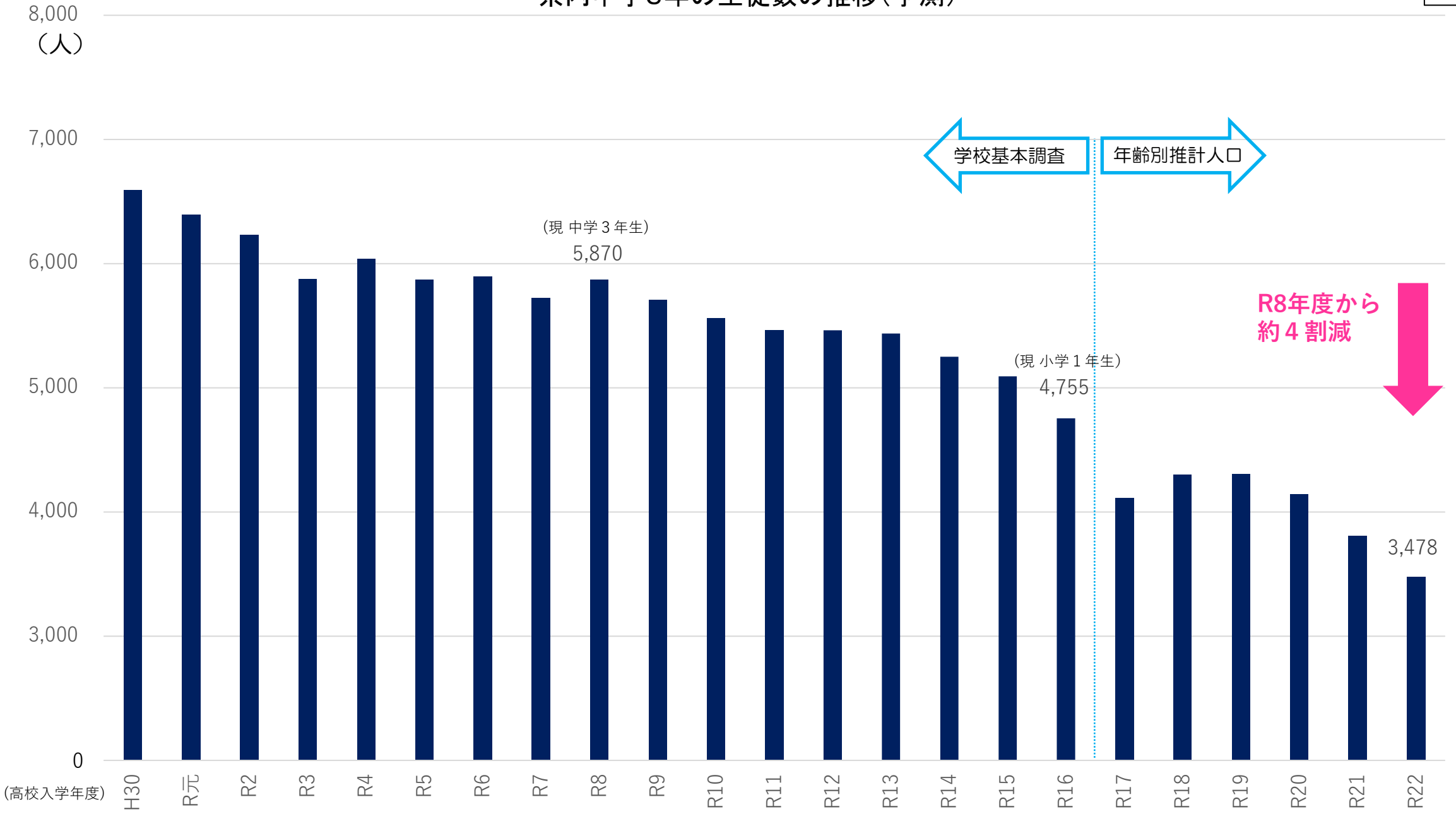
○徳島県以外で Web 出願の導入が進められている現状を踏まえると、受検生・中学校・高等学校の負担軽減のため、徳島県でも Web 出願導入を早期に検討すべきである。

○Web 出願システムの導入に当たっては、個人情報の適切な管理を徹底した上で、導入準備に要する期間等も踏まえ、計画的に整備・運用を進める必要がある。

○生徒自身が出願手続きを行うことになれば、主体的な進路選択や自立を促す契機になると期待される。

資料１

# 県内中学3年の生徒数の推移（予測）




（出典）文部科学省「学校基本調査」（H30～R16）、徳島県「年齢別推計人口」（R17～R22）

資料2

# 県内中学3年の生徒数の地域別推移（予測）

| 高校入学年度 / 地域 | R8年度（現 中3生） | R16年度（現 小1生） | 〈R8比〉増減数（人） | 〈R8比〉増減率（%） | R22年度 | 〈R8比〉増減数（人） | 〈R8比〉増減率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 県全体 | 5,870 | 4,755 | △ 1,115 | △ 19.0% | 3,478 | △ 2,392 | △ 40.7% |
| 徳島市 | 2,213 | 1,848 | △ 365 | △ 16.5% | 1,493 | △ 720 | △ 32.5% |
| 名東郡 | 17 | 12 | △ 5 | △ 29.4% | 8 | △ 9 | △ 52.9% |
| 小松島市 | 259 | 181 | △ 78 | △ 30.1% | 130 | △ 129 | △ 49.8% |
| 勝浦郡 | 37 | 36 | △ 1 | △ 2.7% | 13 | △ 24 | △ 64.9% |
| 阿南市 | 654 | 447 | △ 207 | △ 31.7% | 350 | △ 304 | △ 46.5% |
| 那賀郡 | 46 | 16 | △ 30 | △ 65.2% | 16 | △ 30 | △ 65.2% |
| 海部郡 | 103 | 70 | △ 33 | △ 32.0% | 41 | △ 62 | △ 60.2% |
| 鳴門市 | 401 | 346 | △ 55 | △ 13.7% | 209 | △ 192 | △ 47.9% |
| 板野郡 | 834 | 802 | △ 32 | △ 3.8% | 635 | △ 199 | △ 23.9% |
| 名西郡 | 227 | 211 | △ 16 | △ 7.0% | 122 | △ 105 | △ 46.3% |
| 吉野川市 | 295 | 218 | △ 77 | △ 26.1% | 125 | △ 170 | △ 57.6% |
| 阿波市 | 285 | 200 | △ 85 | △ 29.8% | 117 | △ 168 | △ 58.9% |
| 美馬市 | 207 | 128 | △ 79 | △ 38.2% | 90 | △ 117 | △ 56.5% |
| 美馬郡 | 39 | 34 | △ 5 | △ 12.8% | 16 | △ 23 | △ 59.0% |
| 三好市 | 135 | 97 | △ 38 | △ 28.1% | 57 | △ 78 | △ 57.8% |
| 三好郡 | 118 | 109 | △ 9 | △ 7.6% | 56 | △ 62 | △ 52.5% |

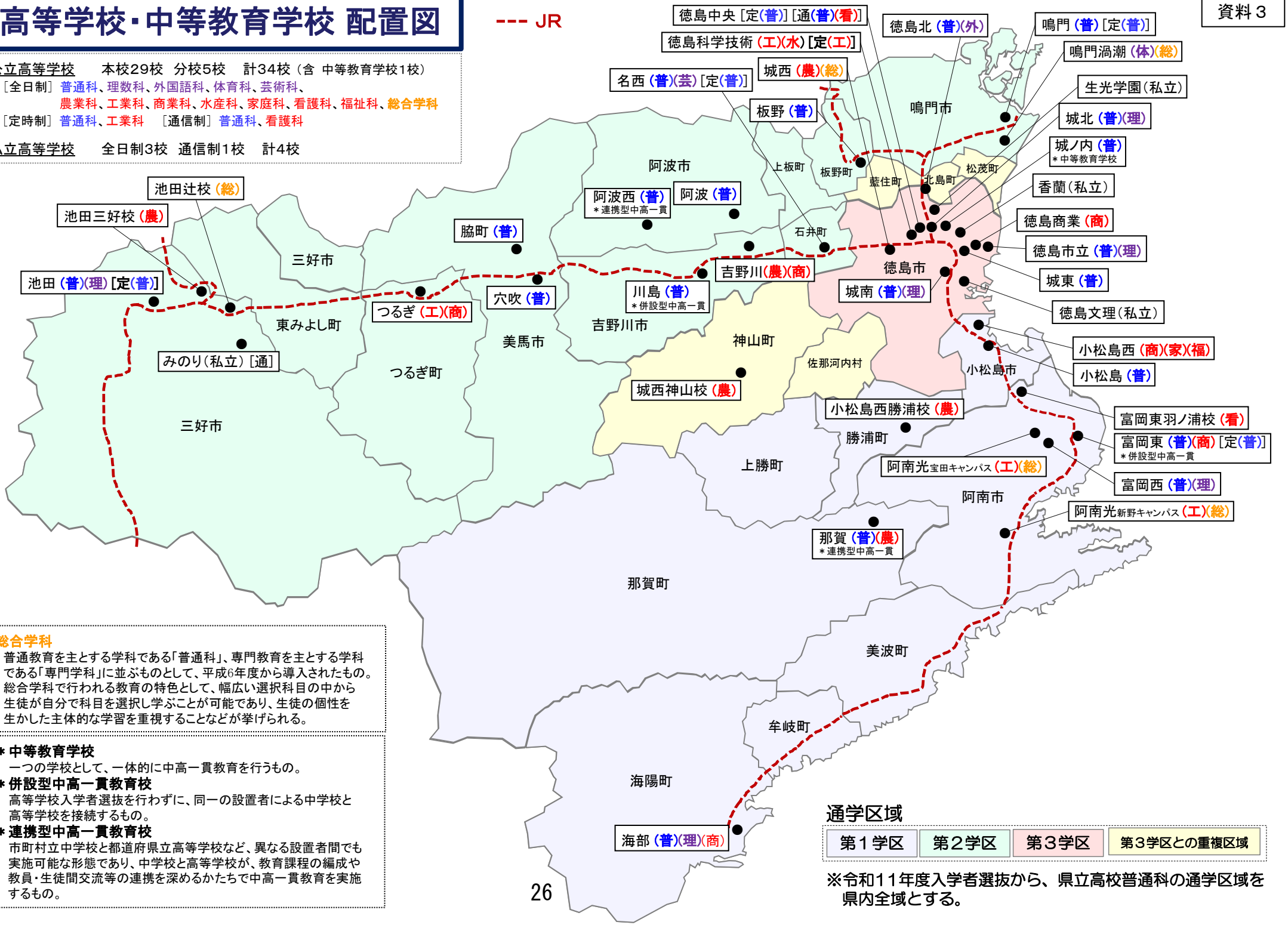
（出典）文部科学省「学校基本調査」（R8・R16）、徳島県「年齢別推計人口」（R22）

# 高等学校・中等教育学校 配置図

資料３

公立高等学校　本校29校　分校5校　計34校（含 中等教育学校1校）
［全日制］普通科、理数科、外国語科、体育科、芸術科、
農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科、総合学科
［定時制］普通科、工業科　［通信制］普通科、看護科

私立高等学校　全日制3校　通信制1校　計4校




**総合学科**
普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶものとして、平成6年度から導入されたもの。総合学科で行われる教育の特色として、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視することなどが挙げられる。

**＊中等教育学校**
一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。

**＊併設型中高一貫教育校**
高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

**＊連携型中高一貫教育校**
市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで中高一貫教育を実施するもの。

**通学区域**

| 第１学区 | 第２学区 | 第３学区 | 第３学区との重複区域 |
|---|---|---|---|

※令和１１年度入学者選抜から、県立高校普通科の通学区域を県内全域とする。

資料４

# 公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況

（1）公立高等学校　全日制の課程

※生徒数は令和7年5月1日現在

| | 学校名 | 学科及び類名 | | 令和7年度募集定員 | 生徒数 | 普通 | 理数 | 外国語 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 看護 | 福祉 | 体育 | 芸術 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 城東高校 | 普通 | | 280 | 834 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 城南高校 | 普通 | | 240 | 805 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数 | 応用数理 | 30 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 3 | 城北高校 | 普通 | | 240 | 805 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数 | 理数科学 | 30 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 4 | 徳島北高校 | 普通 | | 220 | 807 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 外国語 | 国際英語 | 40 | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 5 | 徳島市立高校 | 普通 | | 260 | 912 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数 | 理数 | 40 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 6 | 城西高校 | 農業 | 生産技術 | 20 | 457 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | 植物活用 | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 食品科学 | 25 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | アグリビジネス | 25 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 総合 | | 70 | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 7 | 城西高校神山校 | 農業 | 地域創生類 | 30 | 70 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| 8 | 徳島科学技術高校 | 工業 | 総合科学類 | 60 | 871 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 機械技術類 | 70 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気技術類 | 60 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 建設技術類 | 80 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 水産 | 海洋科学類 | 10 | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | | 海洋技術類 | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 徳島商業高校 | 商業 | ビジネス探究 | 60 | 710 | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | ビジネス創造 | 180 | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 小松島高校 | 普通 | | 160 | 478 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 小松島西高校 | 商業 | 商業 | 50 | 481 | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 家庭 | 食物 | 70 | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | | 生活文化 | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 福祉 | 福祉 | 30 | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 12 | 小松島西高校勝浦校 | 農業 | 応用生産 | 15 | 69 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | 園芸福祉 | 15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 富岡東高校 | 普通 | | 145 | 522 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 商業 | 商業 | 30 | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 14 | 富岡東高校羽ノ浦校 | 看護 | 看護 | 40 | 186 | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | 専攻 | 看護 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 富岡西高校 | 普通 | | 155 | 555 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数 | 理数 | 30 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 16 | 阿南光高校 | 工業 | 機械ロボットシステム | 30 | 482 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気情報システム | 25 | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 都市環境システム | 25 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 総合 | 産業創造 | 85 | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 17 | 那賀高校 | 普通 | | 45 | 173 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 農業 | 森林クリエイト | 20 | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| 18 | 海部高校 | 普通 | | 60 | 272 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 商業 | 情報ビジネス | 20 | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 理数 | 数理科学 | 30 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 19 | 鳴門高校 | 普通 | | 245 | 795 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 20 | 鳴門渦潮高校 | 体育 | スポーツ科学 | 60 | 548 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| | | 総合 | | 120 | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 21 | 板野高校 | 普通 | | 125 | 382 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 22 | 名西高校 | 普通 | | 65 | 295 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 芸術 | 芸術（音楽） | 15 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 芸術（美術） | 20 | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | 芸術（書道） | 10 | | | | | | | | | | | | | | |

| | 学校名 | 学科及び類名 | | 令和7年度募集定員 | 生徒数 | 普通 | 理数 | 外国語 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 看護 | 福祉 | 体育 | 芸術 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 吉野川高校 | 農業 | 農業科学 | 15 | 287 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | 生物活用 | 15 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 商業 | 会計ビジネス | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 情報ビジネス | 25 | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | 食ビジネス | 25 | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 川島高校 | 普通 | | 110 | 346 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 阿波高校 | 普通 | | 130 | 425 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 阿波西高校 | 普通 | | 45 | 131 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 27 | 穴吹高校 | 普通 | | 45 | 119 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 脇町高校 | 普通 | | 165 | 488 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 29 | つるぎ高校 | 工業 | 電気 | 40 | 412 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 機械 | 45 | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 建設 | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 商業 | 商業 | 25 | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | 地域ビジネス | 20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 池田高校 | 普通 | | 120 | 426 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数 | 探究 | 35 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 31 | 池田高校辻校 | 総合 | | 45 | 106 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 32 | 池田高校三好校 | 農業 | 食農科学 | 20 | 83 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | 環境資源 | 15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 全日制計 | | | | 4,850 | 14,332 | 19 | 6 | 1 | 6 | 3 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |

| | 普通科（含 理数・体育・芸術・外国語） | | | | | | 専門学科（除 理数・体育・芸術・外国語） | | | | | | | | 総合学科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 普通 | 理数 | 体育 | 芸術 | 外国語 | 小計 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 看護 | 福祉 | 小計 | |
| 令和7年度全日制募集定員 構成比（%） | 58.9 | 4.0 | 1.2 | 0.9 | 0.8 | 65.9 | 4.8 | 9.4 | 9.4 | 0.6 | 1.9 | 0.8 | 0.6 | 27.5 | 6.6 |

（2）公立高等学校　定時制の課程

| | 学校名 | 学科及び類名 | | 令和7年度募集定員 | 生徒数 | 普通 | 理数 | 外国語 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 看護 | 福祉 | 体育 | 芸術 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 徳島科学技術高校 | 工業 | 機械類 | 40 | 39 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 工業技術類 | 40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 徳島中央高校 | 普通 | 普通（昼間午前） | 60 | 257 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | | 普通（昼間午後） | 30 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 普通（夜間） | 40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 富岡東高校 | 普通 | | 40 | 23 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 鳴門高校 | 普通 | | 40 | 33 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 名西高校 | 普通 | | 40 | 40 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 池田高校 | 普通 | | 40 | 14 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 定時制計 | | | | 370 | 406 | 5 | | | | 1 | | | | | | | | |

（3）公立高等学校　通信制の課程

| | 学校名 | 学科及び類名 | | 令和7年度募集定員 | 生徒数 | 普通 | 理数 | 外国語 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 看護 | 福祉 | 体育 | 芸術 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 徳島中央高校 | 普通 | | ※ | 202 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護 | 衛生看護 | | | | | | | | | | | ○ | | | | |

※募集定員については，制限を設けていない。

（4）県立中等教育学校及び県立中学校

| | 学校名 | 令和7年度募集定員 | 生徒数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 城ノ内中等教育学校 | 140 | 817 |
| 2 | 富岡東中学校（併設型中高一貫教育校） | 70 | 210 |
| 3 | 県立川島中学校（併設型中高一貫教育校） | 50 | 120 |
| 県立中等教育学校及び県立中学校　計 | | 260 | 1,147 |

資料５

# 高校生と教育長によるアイデアソンについて

## １　事業の目的

今後の公立高等学校の在り方について、広く県民の意見を把握しつつ、多角的に検討するための一環として、高校生と教育長が直接対話する機会を設けることとした。

## ２　開催日時　令和７年７月２２日(火)午後２時１５分から午後４時まで

## ３　開催場所　徳島県庁１１階　ＣＯ-ＣＡＧＥキッチン

## ４　参加者

公立高等学校等（２６校）から「生徒４３名」と「ファシリテーター（教員）１２名」が参加

## ５　内容

「未来の学びを創造し、理想の公立高校をデザインしよう！」をテーマに、以下の項目について意見交換を実施

Ⅰ.「未来の学びの場」と「地域とのつながり」について（２グループ）
Ⅱ.「未来を生き抜く力」と「夢への挑戦・追求」について（２グループ）
Ⅲ.「学校の特色化・魅力化」と「自分らしさ」について（２グループ）

## ６　主な発表内容

【未来の学校が果たす役割・地域と学校の連携が生み出す学び】
・地域の人々が集う「みんなの家」、多様な学びの機会の提供、防災拠点としての役割など
・地域を巻き込んだ実践的な学びの実現、地域文化の継承と活性化など

【未来を生き抜く力・夢への挑戦・追求ができる環境】
・コミュニケーション力、探究心、主体性・行動力、自己管理能力、自己表現力など
・多様な経験と学びの機会、助成金、設備の充実など

【学校の特色化・魅力化への取組】
・学校名物の作成、地域連携・文化継承、多様な進路選択と個性的な部活動など

【自分らしさを伸ばせる高校】
・柔軟な学びをサポート、創造性を育む場など

## ７　具体的な意見（抜粋）

・学校という場所を授業として利用するだけでなく、地域の人たちの話し合いの場や交流の拠点としての役割を果たすことができるようにして欲しい
・本当に学びたい学問を、時間をかけてじっくり選ぶことができる制度を作って欲しい
・通学時間を朝と昼に分けたり、学びたい科目だけを学べる日を作ったりしても良いと思う
・「いてほしい先生」や「来てほしい先生」のリストを作成してそれを叶えられる学校があったら面白い

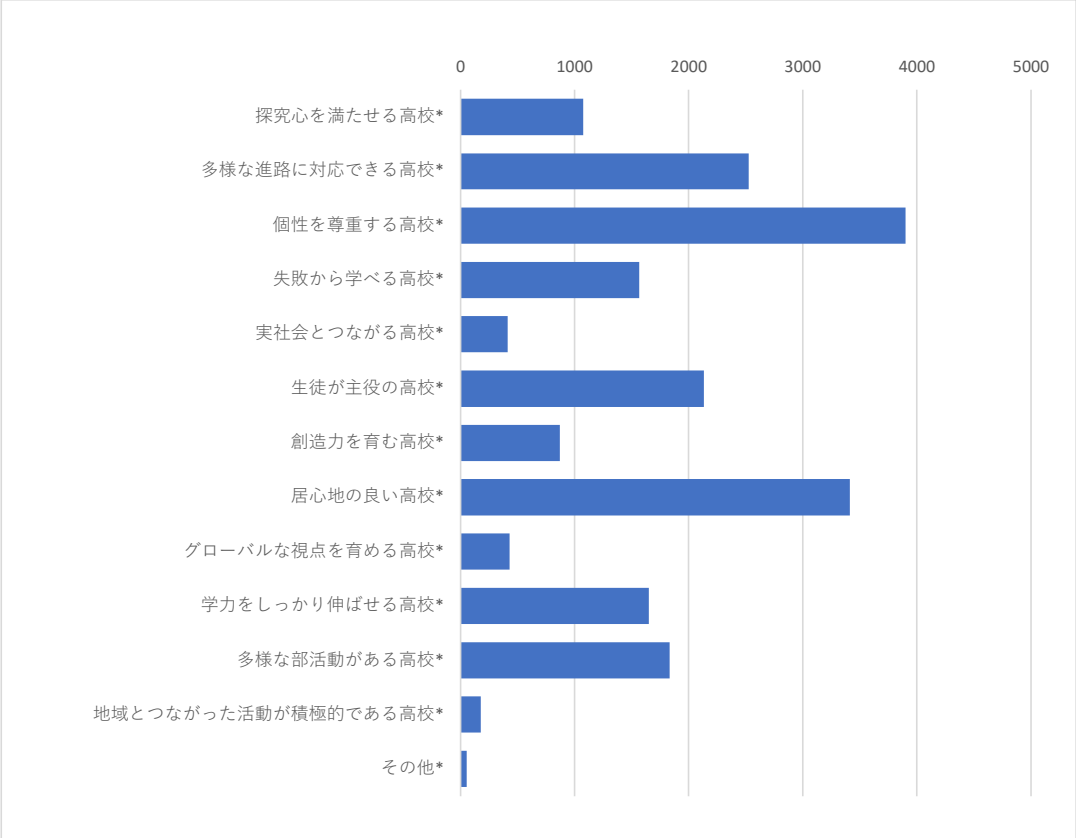
# 公立高等学校の在り方に関するアンケート結果

資料６

問　あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、どのような高校ですか？
当てはまるものを３つまで選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

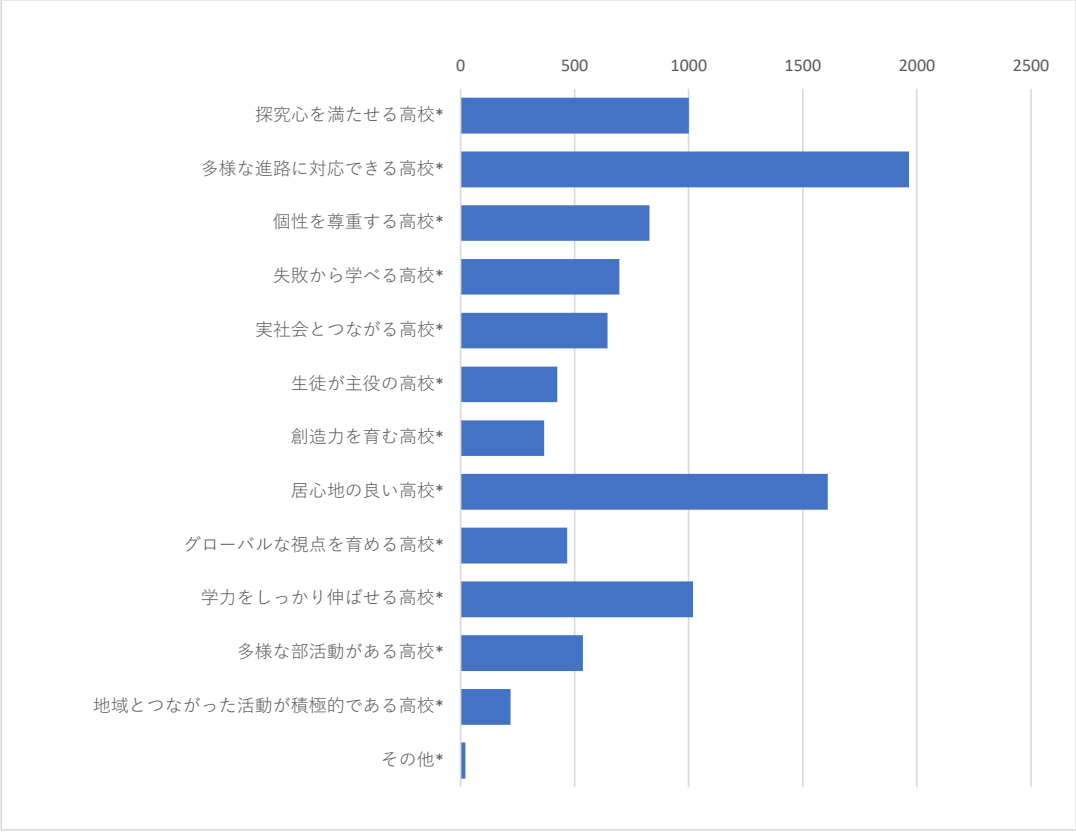
## （1）中学生

有効回答数（7,081、62.85%）




## （2）中学保護者

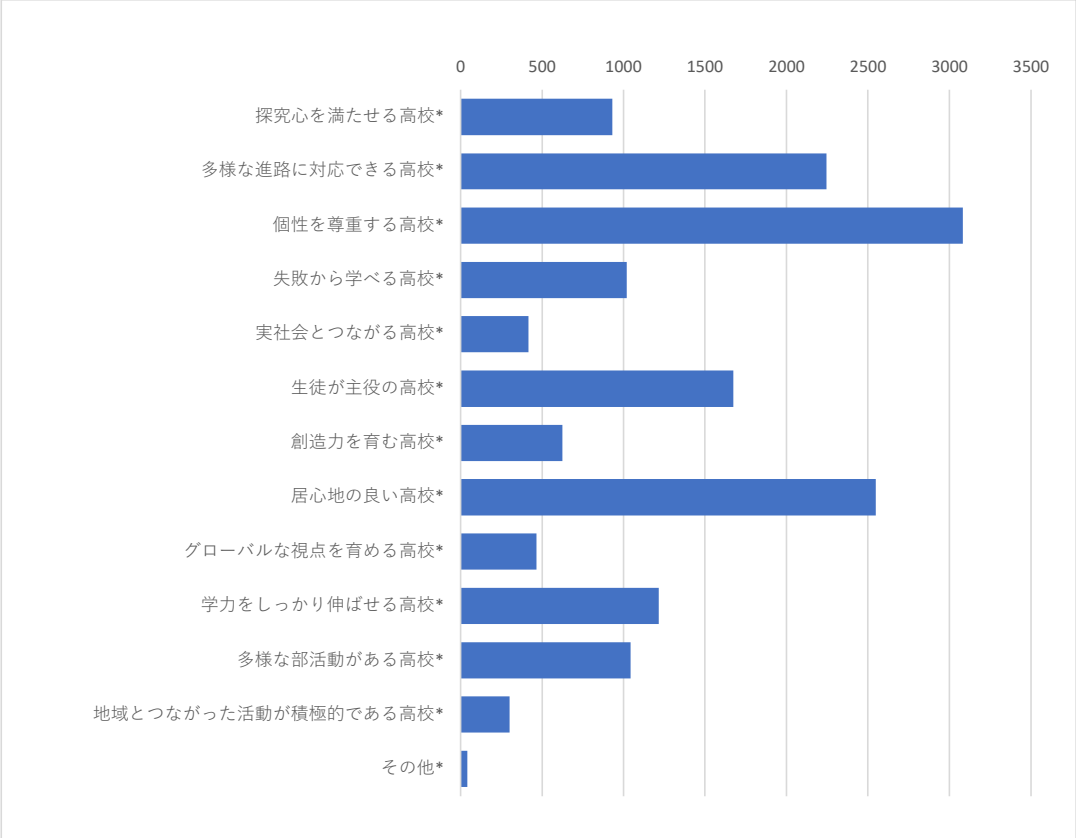
有効回答数（3,463）



問　あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、どのような高校ですか？
当てはまるものを３つまで選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

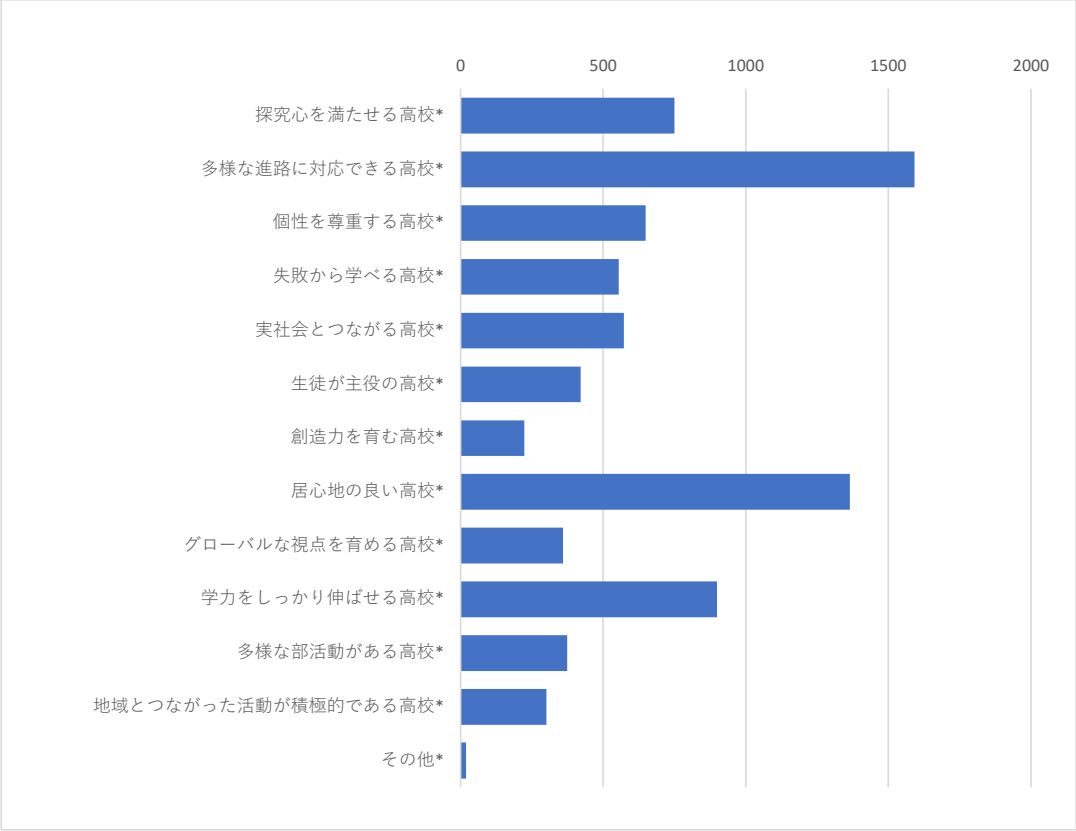
## （3）高校生

有効回答数（5,784、54.69%）




## （4）高校保護者

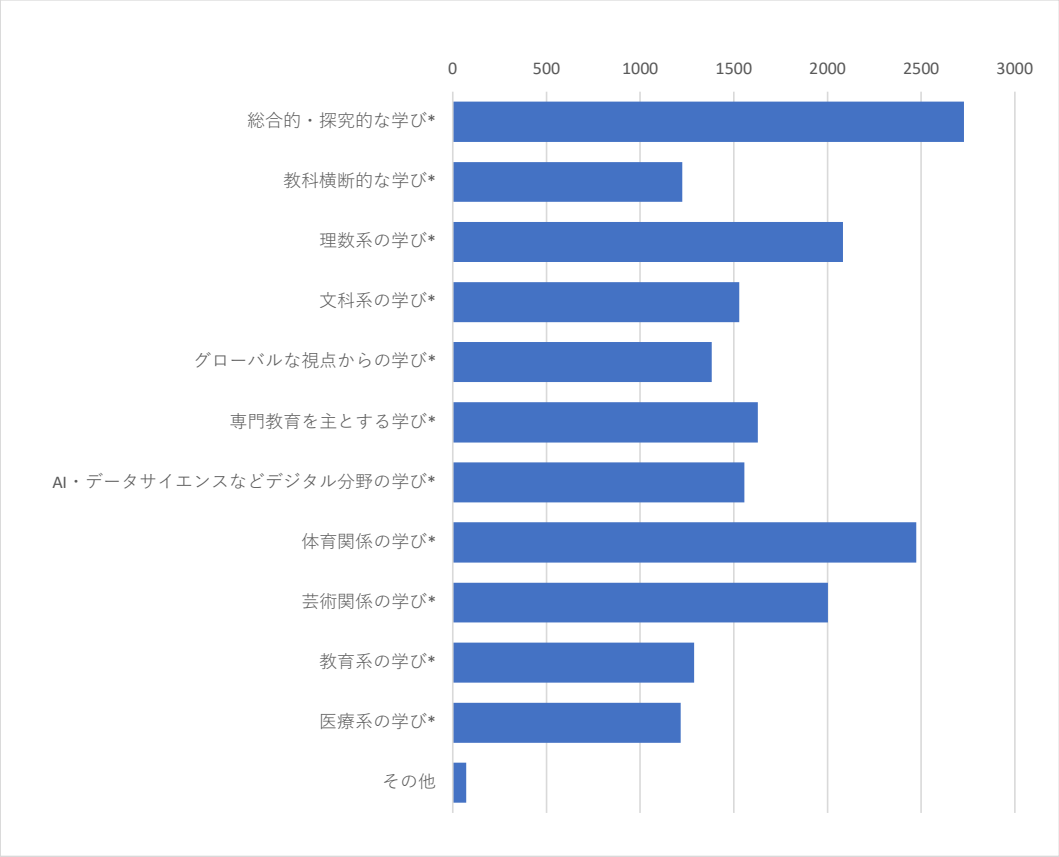
有効回答数（2,836）



問　あなたが高校において「こんな学科やコースがあるといいな」と思うのは、どのような学びを重視した学科やコースですか？ 当てはまるものをすべて選んでください。
すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

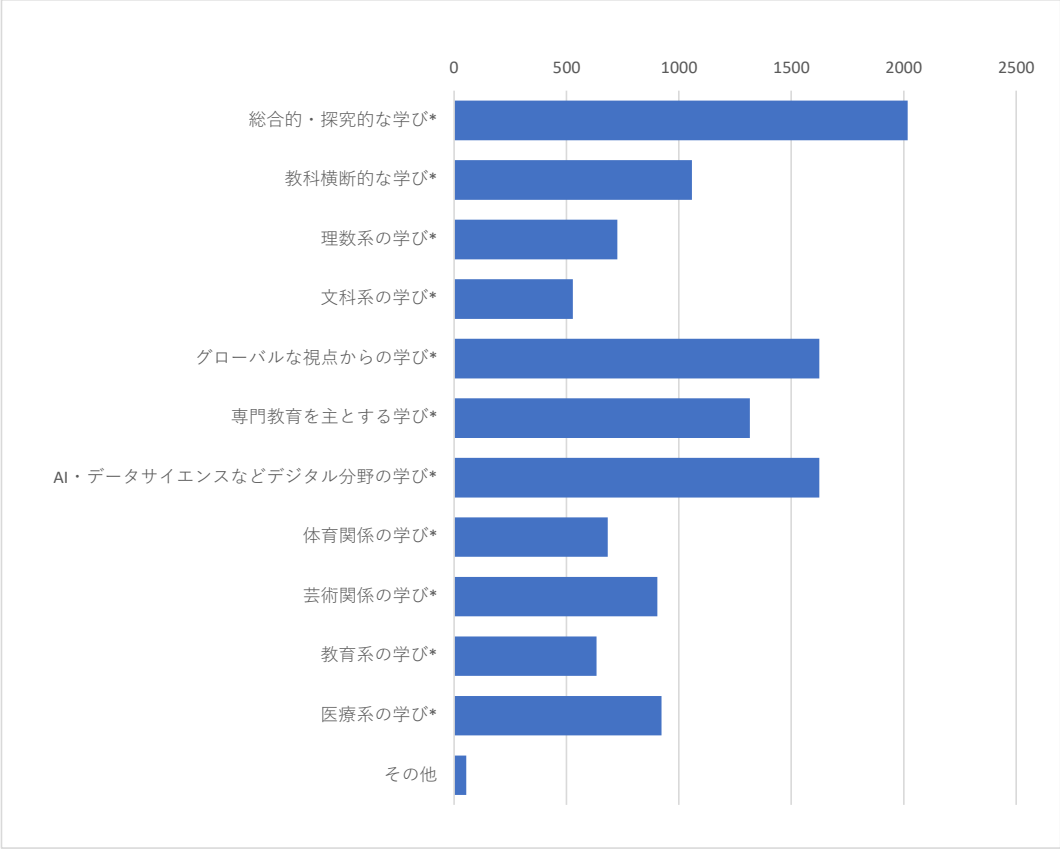
## (1) 中学生

有効回答数（7,081、62.85%）




## (2) 中学保護者

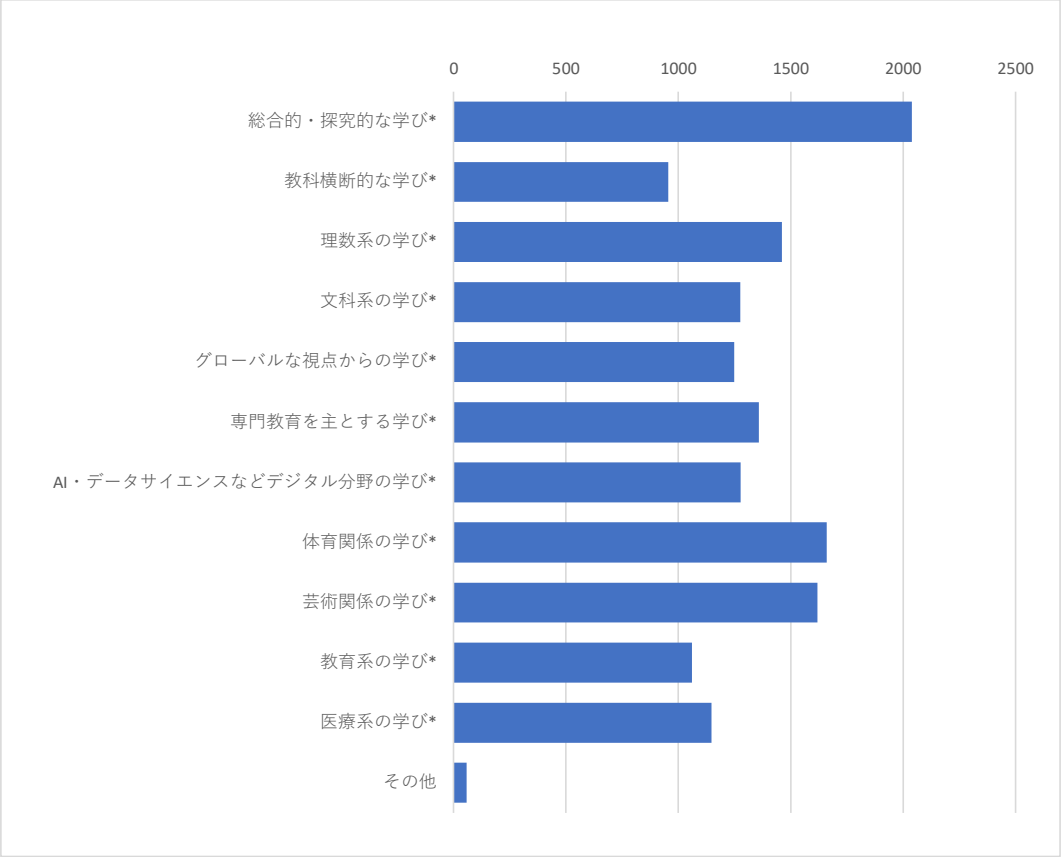
有効回答数（3,463）



問　あなたが高校において「こんな学科やコースがあるといいな」と思うのは、どのような学びを重視した学科やコースですか？ 当てはまるものをすべて選んでください。
すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

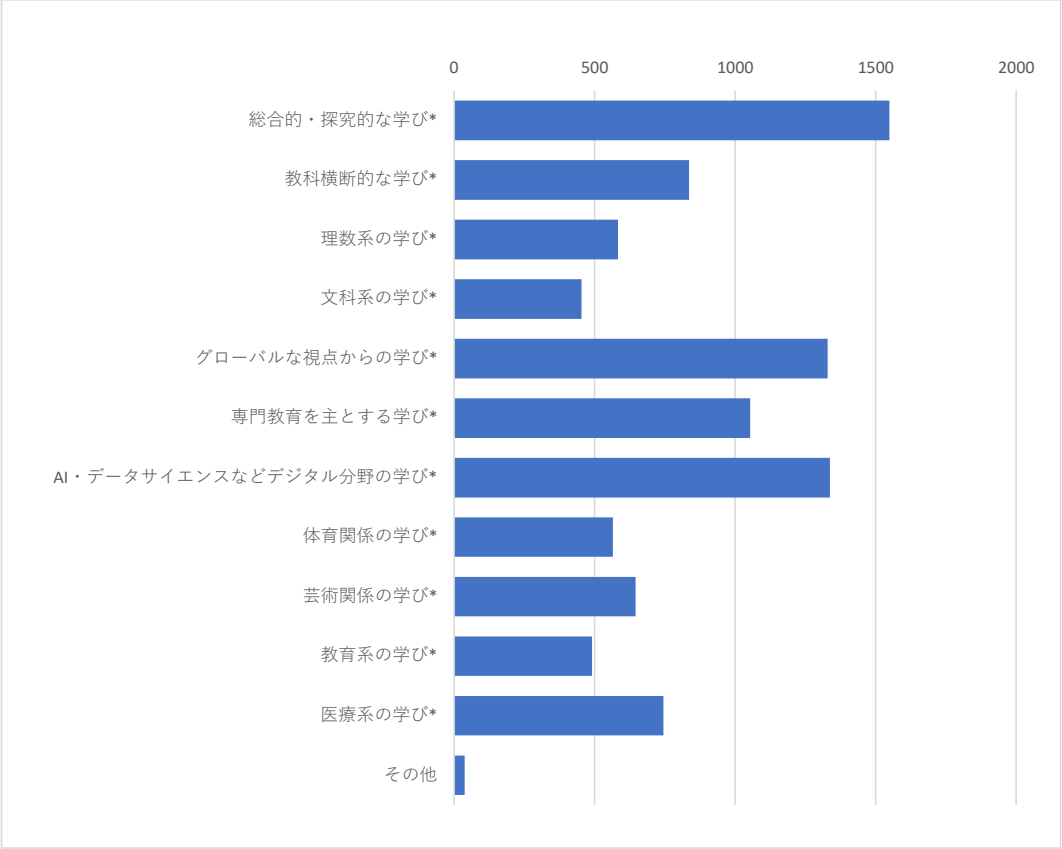
## （3）高校生

有効回答数（5,784、54.69%）




## （4）高校保護者

有効回答数（2,836）

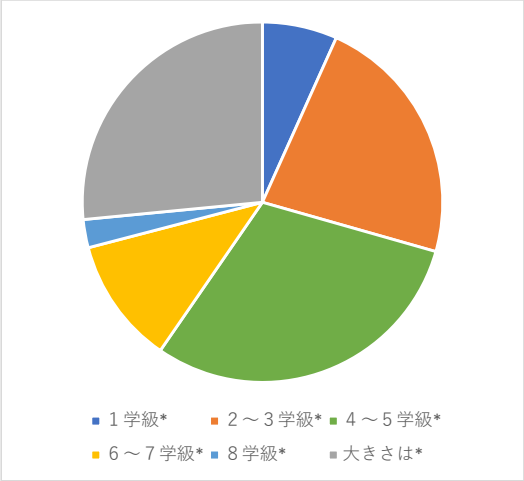


問　あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、１学年あたり、どのくらいの大きさ（生徒数）の高校ですか？当てはまるものを１つ選んでください。

・１学級（１学年あたり40人以下）
・２～３学級（１学年あたり41人～120人）
・４～５学級（１学年あたり121人～200人）
・６～７学級（１学年あたり201人～280人）
・８学級以上（１学年あたり281人以上）
・大きさは特に気にしない

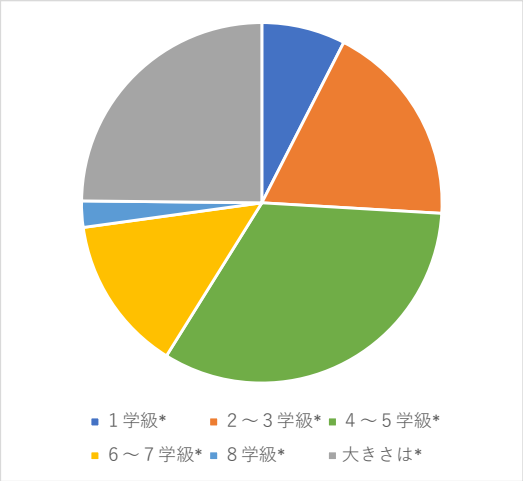
## （1）中学生

有効回答数（7,081、62.85%）



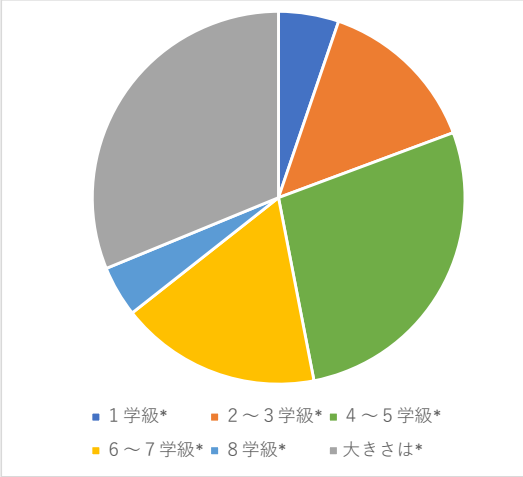

## （2）中学保護者

有効回答数（3,463）



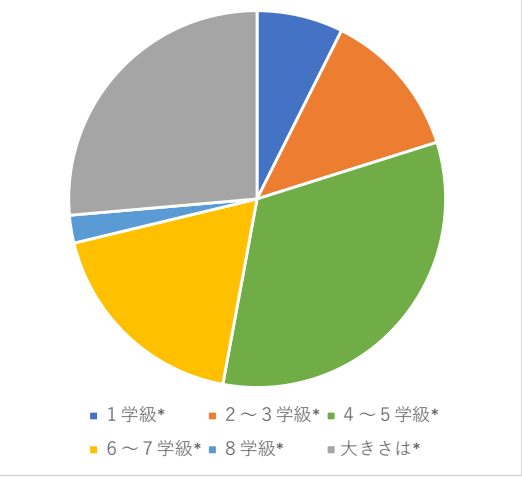

## （3）高校生

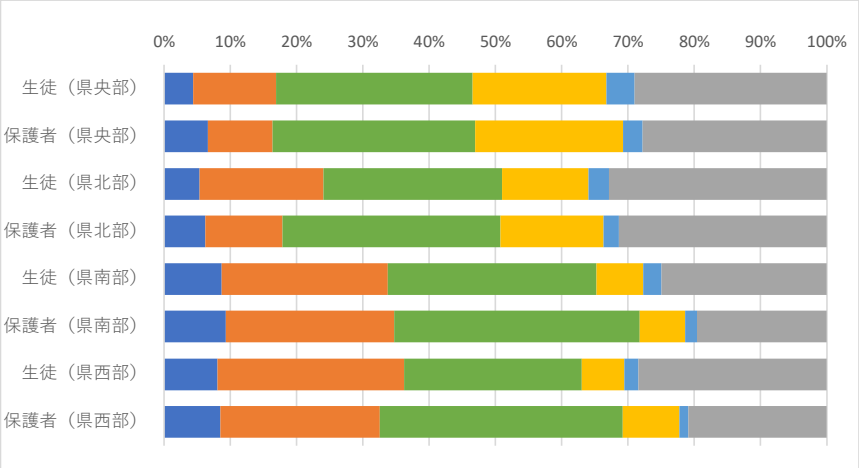
有効回答数（5,784、54.69%）




## （4）高校保護者

有効回答数（2,836）




**県央部**
徳島市、松茂町、北島町、藍住町、佐那河内村、神山町

**県北部**
鳴門市、板野町、上板町

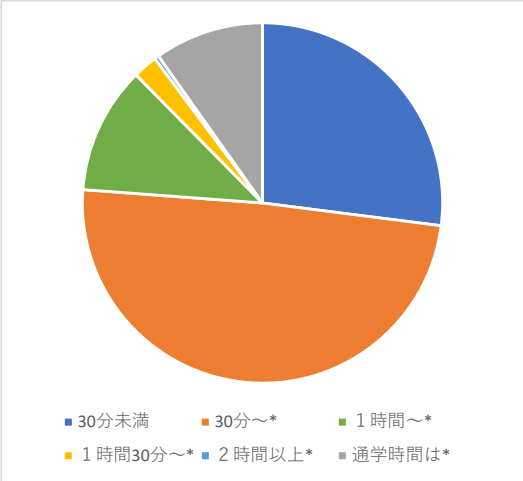
**県南部**
小松島市、阿南市、勝浦町、上勝町、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町

**県西部**
阿波市、吉野川市、美馬市、三好市、石井町、つるぎ町、東みよし町

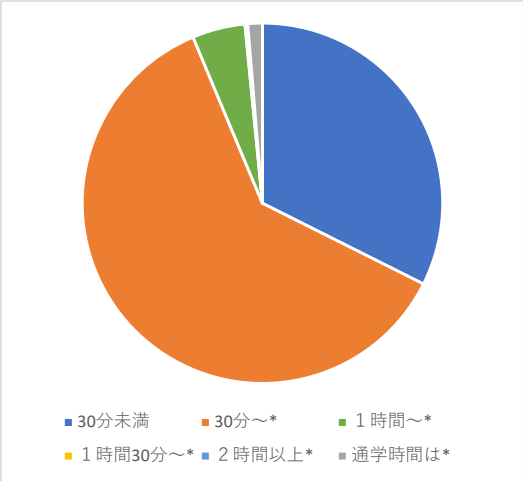
問　進学先（高校）までの通学時間（片道）は、どのくらいまで可能であると考えています（いました）か？当てはまるものを１つ選んでください。

・30分未満
・30分～１時間未満
・１時間～１時間30分未満
・１時間30分～２時間未満
・２時間以上
・通学時間は特に気にしない

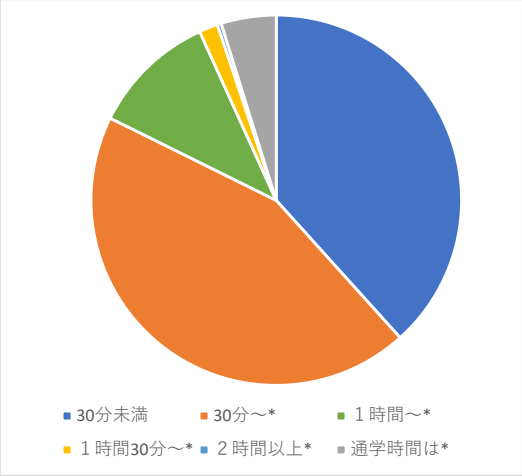
**（1）中学生**　有効回答数（7,081、62.85%）



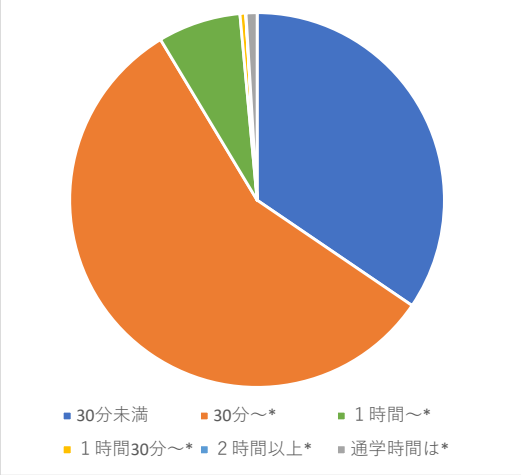

**（2）中学保護者**　有効回答数（3,463）

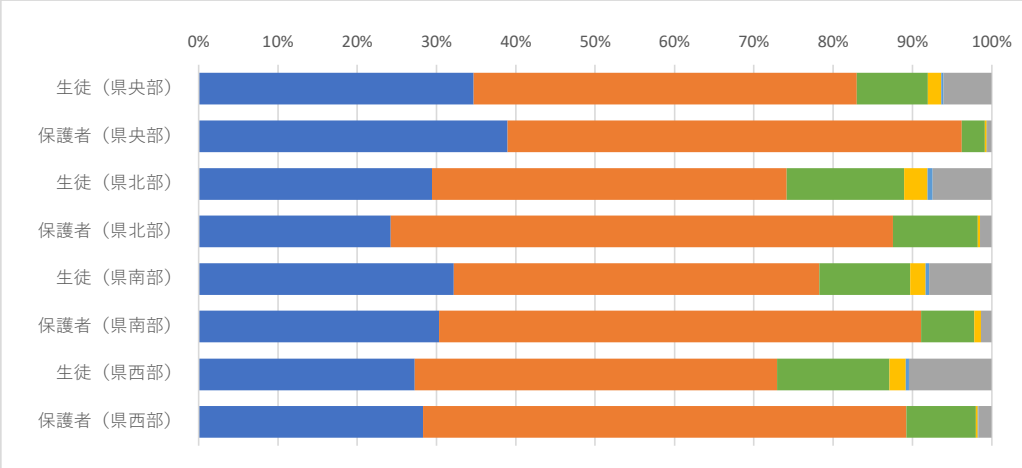



**（3）高校生**　有効回答数（5,784、54.69%）




**（4）高校保護者**　有効回答数（2,836）



問　その他、これからの公立高校がどうあれば良いかについて、何か意見やアイデアがあれば教えてください。

**(1) 中学生**　有効回答数（843）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（30件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・生徒一人ひとりの個性を尊重・大切にし、意見を尊重・反映してくれる学校であってほしい。
・いじめやトラブル、暴力、差別がなく、平和で安全に過ごせる環境を整えてほしい。
・学区制を完全に廃止し、「学区外」という制限を撤廃することで、どの地域からでも自由に高校を選び、受験できるようにしてほしい。
・校舎や設備を新しく、きれいに、清潔にしてほしい（トイレの美化やウォシュレット設置、老朽化の改善を含む）。
・生徒の進路実現をサポートし、将来の夢や社会で役立つ知識/技術（専門分野、資格、探究活動、グローバル化など）を学べるようにして欲しい。

○その他（特徴的な意見）

・登校時間を午前9時までとし、遅刻判定を緩和する制度（特に汽車通学の生徒のため）が欲しい。
・Eスポーツを部活動や学科に取り入れてほしい。
・高校同士が同じ空間で授業をやってみるなど、交流型の学びを導入すべき。
・障がいの有無や学力差にかかわらず、多様な経験ができる機会を増やしてほしい。
・異文化交流や、海外の生徒も入学できるようなグローバル化した高校を増やしてほしい。

**(2) 中学保護者**　有効回答数（656）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（30件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・学区制を廃止または撤廃し、地域や居住地に関係なく、生徒が自由に高校を選択し、公平に受験できるようにしてほしい（点数による差別の廃止を含む）。
・学区制廃止や全県一区化によって、遠距離通学の負担（時間、体力、経済的負担、交通渋滞）が増大することに懸念があり、交通の便や通学手段の確保が不可欠。
・公共交通機関（バス、汽車）の便が悪く、通学に時間や費用、労力がかかりすぎるため、運行時間・本数の改善、アクセスしやすい環境整備を県主導で進めてほしい。
・校舎や設備（老朽化対策、エアコン、トイレ、ICT環境、給食、通学路の安全）を改善・整備し、生徒が安全で快適に学べる環境を整えて欲しい。
・生徒の多様な進路希望や将来の目標実現に向け、専門的な教育（資格取得、キャリア教育、探究活動、AI、金融、国際交流など）を充実させる。
・生徒の自主性や個性を尊重し、校則を時代や環境に合わせて見直し、自由化する。

○その他（特徴的な意見）

・他県のように、各高校の特色や進学・就職実績が容易に比較できるウェブサイトなど、客観的な情報源を県が整備すべき。
・公立高校にも中学校のような給食制度を導入すべき。
・集団競技で問題を起こした生徒は自己責任として厳しく処罰すべきであり、個人のトラブルで全体が処罰を受けるのは可哀想である。
・西部にも学力向上の拠点校が必要であり、川島高校は西部ではなく東の学校である。

問　その他、これからの公立高校がどうあれば良いかについて、何か意見やアイデアがあれば教えてください。

**（3）高校生**　有効回答数（844）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（30件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・生徒の個性を尊重し、多様なニーズや在り方を受け入れ、自由でのびのびと過ごせる環境を整備してほしい。
・不必要な校則を廃止・緩和し、生徒の自主性・自己判断に任せることで、自由で縛られない校風を築いてほしい。
・校舎や施設を新しく、きれいに、清潔にしてほしい（老朽化対策、建て替え、リフォームを含む）。インターネットやICT環境（Wi-Fi、タブレット、PC）を整備・充実させてほしい。
・生徒主体の活動を増やし、イベントや部活動を充実・活性化させること。
・生徒の将来の夢や進路実現に繋がる学びを提供するため、キャリア教育や専門教育、探究活動を充実させること。

○その他（特徴的な意見）

・学校のイベントで街の人も楽しめる行事や、国際交流を増やし、多種多様な学びができる高校を増やすべき。
・オープンスクールなどで、先生からではなく在校生からの説明を増やし、学校の実情を知れるようにすべき。
・ボランティア活動を多くし、様々な仕事や環境について興味を持つ機会を増やす。
・ミスを責められず、逆に伸びしろになるような高校であってほしい。
・教員によって授業の理解度に大きな差がある現状を改善し、教え方を統一すべき。

**（4）高校保護者**　有効回答数（567）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（15件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・生徒の進路実現、キャリア教育、将来役立つ専門知識/スキル（資格、探究、金融、AI、専門学科など）を学べるカリキュラムの充実と強化。
・学区制を廃止/緩和し、学力や居住地に関わらず、生徒が希望する高校を自由に選択できる公平な入試制度を確立（併願の許可、学区内外の点数差の解消を含む）。
・教員の質と指導力を向上させ、生徒に寄り添い、相談に乗れる体制を確保する。また、教員数を増やし、多忙化を解消する。
・遠距離通学の負担（時間、費用、安全）を軽減するため、スクールバス/送迎バスの運行や、学生寮の整備・補助を行って欲しい。
・いじめ、差別、ハラスメントをなくし、不登校や心身の健康、発達障がいなど多様なニーズを持つ生徒をサポートできる環境を強化する。
・老朽化対策、エアコン、トイレ、ICT環境など、生徒が安全で快適に過ごせる施設・設備の改善・整備を行う。

○その他（特徴的な意見）

・普通科以外の専門校（商業・工業など）が少なく、専門分野に特化した高校（例：パソコン技術、公務員試験特化コース、伝統芸能コース）を増やし、専門分野はクラス替えのように学校替えで専門的に学べる仕組みも検討すべき。
・地元で就職できるよう、官公庁や企業、農業、漁業等の現場での体験の機会を増やしてもらいたい。
・徳島県に水産科や農業を学べる学科を県南に増やし、県外からの入学生を増やす。

問　あなたは、公立高校の特色化・魅力化を図る上で、何が重要だと考えますか。

**（5）中学教職員**　有効回答数（736）※なし、ありません、空欄を除く

○主な意見（20件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・各学校が独自の教育課程や取り組み（「ここでしか学べないこと」）を確立し、地域連携やSNS活用などの広報活動を通じて積極的に発信・アピールする。
・卒業後の進路実現（進学・就職）に確実につながる学力や技能、資格取得を保証するため、専門性のある教育課程を充実させる。
・生徒の個性、能力、多様性を尊重し、主体的に学び、進路選択ができる柔軟な教育環境を提供する。（校風の自由度や校則・制服の多様化を含む）
・校舎の老朽化対策、設備（ICT機器、学習環境を含む）の充実を図り、特に市内外の高校間で生じているハード面の格差を是正する。
・教員の専門性、熱意、指導力、質を向上させるとともに、教員の増員や業務負担の軽減を図り、生徒指導に時間を使える体制を整える。

○その他（特徴的な意見）

・学期に１度「○○学校といえばこれがある」と誇れる行事や取り組みを設けるべき。
・各地域の特色を生かした教育活動を行うため、地域との橋渡しをしてくれる学校魅力化アドバイザーの導入が必要である。
・特色化・魅力化を図るためには、教員の長時間労働の是正など教育活動全体の見直し、および地域の文化・人的リソースを開拓する余裕が必要。
・どの学校も地域性を含め伝統的なものがある。それを守り継続していくことが重要。

**（6）高校教職員**　有効回答数（713）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（20件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・教員の確保、専門性の向上、および業務負担の軽減や精神的なゆとりを創出する。
・校舎の建て替え/改修/修繕、施設・設備の充実（特にトイレ、エアコン、ICT関連機器など）、ハード面での格差是正、学校独自の活動に使える予算の確保を希望。
・地域社会や産業との連携強化、地域資源を活用した教育の実践。
・生徒の多様な進路希望に対応する進路指導、進路実績、および専門知識・資格取得のサポート強化。
・他校との差別化、オンリーワンの教育、学校独自のコンセプトや強みの確立、SNSや広報活動による情報発信の強化。

○その他（特徴的な意見）

・カリキュラムがオーバーロード状態であり、生徒の多くが基礎内容すら消化不良を起こしているため、学習内容の精選やカリキュラムの見直しが必要である。
・教員が希望しないような異動を無くし長期的に勤められる環境を整備すべき。
・普通科と農業科や工業科など、いくつかのカリキュラムを複合することで、学校規模を維持し、部活動などの特別活動を充実させ、魅力化につなげるべき。
・各学校がもっと個性あるコンセプト、育てる生徒像を分け、たとえば「数学特化」「地域連携やりまくり」のように、他校と差をはっきりつけていくべきである。
・公立高校である限り、特色・魅力というより、どの高校に通っても同じような教育が受けられること（教育の均質性）が重要である。

問　あなたは、公立高校の学校規模・配置について、どのような考えをお持ちですか。
具体的な理由もあわせてお聞かせください。

**（5）中学教職員**　有効回答数（649）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（15件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・徳島市内に高校や定員が偏っている現状を是正し、県全体にバランスよく配置する。特に県西部・南部にも中規模の拠点を残し、地域の衰退を防ぐこと。
・生徒数の減少（少子化）を鑑み、統廃合や規模の縮小はやむを得ないが、地域の文化や活性化のために高校数は極力維持する
・教員が教育活動に専念できるよう、教員数（職員数）を確保・増員し、部活動やICT対応など過剰な業務負担を軽減する。
・生徒が切磋琢磨し、多様な人間関係や活動（部活動、行事）ができるよう、ある程度の規模（学年3～5クラス、100人以上）を確保する。
・小規模校の利点を生かし、個別指導や地域協働学習、特色ある学びを提供することで、学校の魅力化・特色化を図る。

○その他（特徴的な意見）

・JRや路線バスが利用できるエリアは、学校数を減らすという検討も必要。
・統廃合する際は、既存の校舎を活用するというのではなく、その地域の子供たちが通いたくなり誇りに思えるような施設の整った高校を新設して欲しい。
・徳島市以外の高校へ希望数が分散する仕組みを作るため、校舎の建て替えや制服の変更、各校の特色を強くするのは地方が先ではないか。

**（6）高校教職員**　有効回答数（697）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（20件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・生徒数の減少に伴う統廃合は避けられないとしても、学校の廃止は地域の衰退（過疎化、活力の低下）に直結するため、特に県西部や県南部の学校は極力存続させるか、配置については慎重に検討すべきである。
・徳島市内の高校への一極集中を避け、県全体（特に西部・南部）にバランスよく高校を配置し、地域校の魅力を維持・強化する。
・多様な教育活動（授業、部活動、学校行事など）や教員の効率的な配置を可能にするため、学校は最低でも1学年あたり3クラス以上（全校生徒300～600人程度）の適正な規模を維持すべきである。
・きめ細やかな指導や個別の支援を実現するため、1クラス当たりの生徒数を削減（20～35人程度）し、少人数学級を導入すべきである。
・小規模校（分校）であっても、生徒の多様なニーズへの対応や、自宅からの通学距離を考慮し、地域に学校を残すべきである。

○その他（特徴的な意見）

・SSH指定校など、特定の研究指定校では、カリキュラム開発を継続させるため、担当教員が最低3～5年間は異動しないよう、人事配置に特別な措置を講じるべき。
・学校規模を維持し、全ての選択科目が常勤教員によって開講できる規模が適正である。非常勤や遠隔授業での開講は望ましくない。
・規模にこだわる必要はなく、来たい生徒を全員受け入れ、学校の基準で厳格に進級・卒業を許可すればよい。

問　その他、これからの公立高校がどうあれば良いかについて、何か意見やアイデアがあれば教えてください。

**（5）中学教職員**　有効回答数（382）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（15件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・各高校が独自の特色ある教育内容や取り組み（学科、カリキュラム、部活動、地域連携など）を確立し、積極的にPRや情報発信を行い、生徒の多様な学びのニーズに応える。
・学区制を廃止し、生徒が居住地や学力で制限されることなく、自由に高校を選択できるようにすべき。また、受験機会の複数化や入試制度（多段階選抜、単願制の見直しなど）の改革を行うべき。
・教員（職員）数を増やし、一人当たりの業務負担を軽減・分散することで、教育活動や生徒指導に時間を割けるようにすべき。
・徳島市内の高校への生徒集中を分散させ、地元の生徒が地元高校に通えるよう、地域配置のバランスを見直し、地域ごとの学校の魅力を高めるべき。

○その他（特徴的な意見）

・高校教職員が危機感を持って対応し、まずは教職員自身の意識改革が必要である。
・文科省の取り組み（SSH等）への応募・活用を推進する際、現場教員の負担軽減をサポートする専門部局を教育委員会等、別機関で立ち上げるべき。
・高校は義務教育ではないことを再確認し、どんなに学力が低くても合格させていく高校に特色は生まれないため、一定のレベルを保つべき。
・不登校生徒への対応として、公立の通信制高校や対応した高校が必要。

**（6）高校教職員**　有効回答数（467）※なし、ありません、空欄等を除く

○主な意見（30件以上の類似する意見があるものを抜粋）

・教職員の数を増やし、生徒数に応じた適切な人員配置（加配を含む）を行うことで、教育活動や新たな取り組みを行うための時間的・精神的ゆとりを確保し、教員の多忙を解消すること。
・徳島市内の高校とその他の地域の高校との間で、校舎の老朽化や設備の格差が著しいため、特に県西部や県南部の高校の建て替え、改修、リフレッシュ工事など、ハード面の格差を是正すること。
・学校が地域文化や風土を継承する施設としての役割を担うべき。地域社会や企業、自治体と連携し、地域課題の解決や活性化につながる教育活動を実施し、地元定着につながる人材を育成すべき。
・各高校の独自性・特色の明確化、情報発信の強化を図ること。
・生徒の多様なニーズ対応、個別指導、少人数教育の推進。

○その他（特徴的な意見）

・中学校の輪切り指導ではなく、以前のような前期後期のような入試の形態が望ましい。希望のところを受検できる形にしてほしい。育成型選抜のあり方を見直し、各競技で強化指定校を１～２校に絞ることで特色化を図るべき。
・全国で有名になるよう、学力はこの高校、部活はこの学校、総合型選抜の実績No.1の学校など、一つに特化した学校を指定校にしても良い。
・誰でも入れる高校ではなく、最低限の学力が無いと合格できない仕組みにしたい。

資料７

# 公立高校のあり方に関するタウンミーティングでの主な意見

## ○牟岐会場（９月２５日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 地域との連携 | ・地域交流を積極的に行い、地域の特色を活かした教育。 |
| | 学びの内容 | ・生徒が夢や目標を見つけられる普通科以外（社会で必要なこと、体験）の学び。<br>・質の高い教育を提供。 |
| | 環境 | ・文武両道で部活動に熱心に打ち込める環境。<br>・防災拠点としての使命を果たせる学校。 |
| | 教育内容の充実 | ・地域特有の文化・伝統を学べる新たな学科の設置・カリキュラムの導入。<br>・社会で必要なことを学ぶ体験型の学びの充実。<br>・世界との繋がりを重視し、郡外・県外・海外から生徒が集まる特色を持つ。<br>・地域の特色を活かした部活動の創設。 |
| 特色化・魅力化 | 交流・国際化 | ・留学プログラムの継続と充実による他校、他県、海外との交流の促進。<br>・地域の方々からの温かい支援を受けられる学校。 |
| | 施設・環境 | ・校舎や設備の充実。地域の食材を活用した学食の充実。<br>・部活動の指導者の確保やグラウンドなどの環境整備と部活動の魅力化。 |
| | 受け入れ体制・寮 | ・通学問題の解消にも繋がる寮の魅力化。<br>・津波に強く安全でおしゃれな校舎の整備。<br>・不登校の生徒や障がいのある生徒への合理的配慮など、多様な生徒を受け入れる体制の整備。 |
| 規模・配置 | 規模・配置 | ・今後の人口減少の中でも、1 学年 100 人前後の一定の規模維持が必要。<br>・県南にも複数の選択肢を提供できるような配置。 |
| | 地域での存続 | ・地域に高校を残すことを強く希望し、海部郡に一校はあって欲しい。<br>・交通機関の移動手段の利便性の向上。 |

## ○三好会場（１０月２日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 地域との連携 | ・地域と連携し、地域と近い高校。地元を支える人材を育てる高校。<br>・ローカリズムに縛られない子どもの特色を生かせる高校。<br>・教育を核とした町づくり。 |
| | 教育内容と進路 | ・生徒の選択肢を確保し、様々なカリキュラムを提供する学校。<br>・大学受験に向けてしっかり対策してくれる高校。 |
| | 校風と環境 | ・勉強・部活・学校行事など、何事にも頑張る雰囲気のある環境。 |
| 特色化・魅力化 | 地域連携と国際化 | ・地域とつながる外部（市、起業人、国際人）との交流。　・国際科のある高校。<br>・外国人（戦争孤児や避難民の子ども）の受入れ。ホストファミリーを作る。 |
| | キャリア教育 | ・高校の専門性を強め、深い学びができる学校。　・創業スキルが学べる学校。<br>・いろいろな職業や立場の人の話が聞けたり、対話できたりする学校。 |
| | 地域固有の特色 | ・三好市に誇りを持てる、郷土愛を育む教育。<br>・日本でその学校にしかないコース（酒、妖怪、ジオ、アニメなど）が学べる学校。 |
| 規模・配置 | 規模・配置 | ・1 学年 90～100 人程度の一定の規模維持が必要。<br>・１クラス 10～20 の少人数教育を希望。<br>・旧三好郡内に 1 校は高校が必要。統合を進め、各市に 1 校で十分。 |
| | 統合の範囲 | ・生徒数のさらなる減少に備え、池田本校、辻校、三好校、つるぎ高校商業科までが統合の視野に入る。 |
| その他 | 学校運営 | ・生徒が主体の学校（自由だけでなく責任を学ぶ）。<br>・失敗を評価してくれる学校。　・県内の高校同士で簡単に転校できる。 |

○美馬会場（１０月６日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 教育内容と進路 | ・就職や進学につながる体験や学びを充実させ、多様な進路実現を図ることができる高校。 |
| | 教育方針と人材育成 | ・専門性の高いコースを選択できる高校。　・生徒主体の活動を重視する学校。<br>・高校は大学のように専門分野に特化するのでなく、幅広く必要な資質・能力の育成に注力すべき。 |
| | 地域連携 | ・地元地域や小中学校と繋がれるような学校。　・地域に愛着を持ってもらえる教育内容。<br>・地元の良さを発信できる人材を育てる学校。 |
| 特色化・魅力化 | 学科・コースの多様化 | ・職業科・ゲーム科・マンガ科・e スポーツ科など、特徴的な学科を新設する。<br>・複数の学科（普通科、工業科など）を持つ高校。 |
| | 進路・キャリア | ・地元の高校でも将来の夢を諦めなくていいような学校。 |
| | 地域連携と教育内容 | ・地元の特色や産業を知ることで、地域愛を育成するような学校。<br>・思い切った特色化を図るため、「捨てること」も必要。<br>・自然や農業など、都会にはないことで勝負する。 |
| | 施設・環境整備 | ・他県や県東部に負けない校舎等や、（寮の代わりに）空き家を活用した住環境の整備。<br>・地域の方を雇用し、特産品を生かした学食の運営。 |
| 規模・配置 | 規模の必要性 | ・様々な選択肢を与えるためにも、1 学年 270 人程度の大規模高校が必要。<br>・小・中・高連携した学校の設置（美馬・三好地区を一つに考えて）。<br>・高校を統合し、カレッジタウンのようにハイスクールタウンをつくる。 |
| | 小規模校の維持 | ・少人数でも学校を維持してほしい 。　・一人一人に手厚い指導ができる小規模校も必要。 |
| | 地域ごとの配置 | ・市町が活性化するためにも、郡市に一つは高校が必要（高校がなくなると地域は衰退する）。 |
| その他 | 施設等への要望 | ・築年数が 50 年以上の古い学校ばかりで、新校舎を建てるべきだった(取り組むのが 20 年遅い)。 |
| | 通学への配慮 | ・通学のための交通手段の確保、経済格差が生じないようしてもらいたい。 |

○吉野川会場（１０月８日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 教育環境 | ・自己調整力を培うため、カリキュラムに余白を作る。<br>・自分で試行錯誤したり、マイプロジェクトに取り組んだりする機会を提供。<br>・しがらみのない Freedom を重視し、起業家の育成を目指す。 |
| | 人材育成 | ・地域の魅力を維持できるような人材の育成、地域産業に貢献できる学校が求められる。<br>・一次産業が強い地元で働きたいと思える郷土愛を持つ生徒を育成すること。<br>・世界や日本全国で活躍できる人材の育成（ハイタレント教育の推進）も重要。 |
| | 個に応じた学びの実現 | ・個に応じた多様な学びの選択肢としての学校（通信制を含む）が必要。<br>・学びの多様化への対応（県立の広域通信制、エンカレッジスクール）。<br>・生きる力や人権を大切にすることが学べ、生徒が主体である学校が望ましい。 |
| | 特色ある専門性 | ・スポーツや勉強など、ここに進学するという特色を持った専門性のある学校。 |
| 特色化・魅力化 | 地域･産業連携 | ・大学・企業と連携したカリキュラムをもち、企業や地域産業の方の授業を受けるなど、地域の人材を活用した教育を行うべき。<br>・地域との連携が円滑になるよう、コーディネーター人材の確保・配置が望ましい。 |
| | 多様な教育内容 | ・デジタル、アート（これまでのものと異なるもの）、外国語を重視する。 |
| | ユニークな専門分野 | ・徳島の特色が学べる、専門的な学科（観光や阿波踊り）を持つ高校。<br>・実業系学科の充実や英語教育の充実（バカロレア校）も図るべき。 |
| 規模・配置 | 規模の多様性と地域均衡の維持 | ・交通の便もあわせて配置を考える必要があり、一地域（徳島市内）に集約する必要はない。<br>・各地域に最低限の規模の高校が必要であり、各市町に 1 校の配置が理想。 |
| | 望ましい規模 | ・1 学年 150 人、20 校程度。あるいは 1 学年 4 学級以上、全体で 500 人規模。 |
| その他 | 学校運営と地域社会との連携 | ・高校の再編・統合に関して、行政も参画し、町づくりのビジョンと関連付けて検討すべき。<br>・小・中・高一貫の学校や、小規模校同士でのリソース共有を進めるべき。 |

○阿南会場（１０月１４日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 多様なニーズに応える教育 | ・生徒の多様なニーズに対応でき、進路実現（就職・進学）が可能な学校。<br>・既存の教育課程に縛られない先進的な学びの場。　・不登校対策に特化した学校。 |
| | 進路を意識した人材育成 | ・地域の人が出入りできる学校を交流の拠点とし、地域に根ざした学校（文化、産業など）。<br>・高校を卒業して県外に行っても地元に戻ってきてくれる生徒の育成を目指す。 |
| | 教育の特性 | ・何か（進学・部活動・カリキュラムなど）に特化した学校。<br>・全国で一位になれるような部活動がある高校。 |
| 特色化・魅力化 | 就職･進学の両面での特化 | ・進学に特化したクラスのある学校（習熟度別のクラス編成が理想）。<br>・船舶、山林、大工、左官、配管工など、就職を前提とした学科。<br>・人手不足で求められている人材（歯科衛生士、介護職員）を育成できる学科が必要。 |
| | 地域連携 | ・地域に求められる、地域に根ざした学校を目指す。<br>・医工連携を学べるコースの設置。 |
| | 多様な選択肢 | ・生徒の学習状況に合わせ、能力育成ができる学校。<br>・選択肢の多い学校。 |
| 規模・配置 | 教育環境の整備 | ・教育環境のしっかりした大きな学校を整備した方が良い。<br>・複合型の大規模校と特化型の小規模専門校の併存。<br>・部活動で、単独チームで大会に出場できる、またはクラス替えが可能な規模。 |
| | 地域均衡配置 | ・高校はまちづくりに不可欠であり、その存在価値は多岐にわたるため、生徒数が減少しても教員数は確保すべき。<br>・過疎地にも配置し、通学に困らない高校配置が重要。 |
| その他 | 予算の柔軟性 | ・特色化・魅力化を進めるには、学校が自由に使える予算が必要（神山高専をモデルに）。<br>・専門教員は給料を上げ、他県からスカウトできるようにすべき。 |

○小松島会場（１０月１５日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 連携 | ・地域や企業と連携し、就職につながる人材を育成する高校であること。<br>・大学との連携強化（高大連携）や、高校どうしの交流機会を増やす連携を進める。<br>・多様な国の人と共に学び、国際化を図る高校として人材育成の拠点となること。 |
| | 選択肢の提供 | ・生徒が学びたい分野を自由に選択できる単位制を導入し多様な選択肢を提供。 |
| | 学校生活 | ・「青春を満喫できる学校」や「遊びと学びが充実している学校」といった、学校生活の充実。 |
| | 環境・整備 | ・きれいな校舎、整った設備がある学校。　・「制服がおしゃれ」な学校。 |
| 特色化・魅力化 | 能力育成 | ・将来社会で役立つ学びを重視し、生徒がどんなことにも挑戦できる環境を作ること。<br>・必須単位の見直しをして、やりたいことが選択できる時間を作る。 |
| | 未来への貢献 | ・地域未来に関わる人材育成を行い、卒業生が地元に戻ってくるような学校作り。 |
| | 専門性の高い学科 | ・職人科、プログラミング科など、他にないとがった専門性の高い学科を設置する。<br>・看護師等を育成する職業に特化した教育。　・金融リテラシーを学べる高校。 |
| | 外部資源の活用 | ・地元や最先端で活躍している外部人材を積極的に活用し教育の充実を図る。 |
| 規模・配置 | 選択肢の確保 | ・1 学年 100 人以上、または 1 学年 3 クラス以上など、活動維持が可能な一定規模を確保。<br>・中学生が選択肢を持てるように、小規模でも高校は存続させて欲しい。 |
| | 通学の利便性 | ・交通の利便性が良く、目安として 30 分以内で通うことができるような配置にすること。<br>・生徒の安全のため、通学の利便性と共に安全な通学路を確保する必要がある。 |
| その他 | 交通費補助 | ・学びたい学校で学ぶため、JR やバスなどの交通費補助といった公費支援が必要。 |
| | 入試制度の改善 | ・生徒がチャレンジできるよう、複数回受験できる入試制度が望ましい。 |

○鳴門会場（１０月２８日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 進路と実績 | ・就職から進学まで、生徒の希望が叶えられる進路指導が行われる学校。<br>・進学面やスポーツなど強みがあり、部活動（文化・体育）で全国上位の成績を上げられる学校。 |
| | 学びの多様性 | ・生徒自らが、自分の将来と地域の未来を結びつけて主体的に考えられる高校。 |
| | 地域との関係 | ・地域の中学生に望まれる学校であるとともに、地域住民と交流できる高校。<br>・地元愛を育む学校。　・地域のリーダー養成ができる学校。 |
| 特色化・魅力化 | 学力 | ・理数系人材の育成が重要であり、DX や AI など成長分野の学びができる教育や、理数系だけでなく英語を重視した学科の設立が必要。 |
| | グローバル | ・留学制度の充実や海外大学への推薦制度（指定校推薦枠の確立）を進める。 |
| | 外部連携 | ・大塚製薬との連携による職業人教育「大塚学園（仮）」の設立。 |
| | 人材と環境整備 | ・指導に関して専門性の高い教員、部活動指導に関してその道の専門家を顧問に採用する。<br>・遠距離からの生徒を受け入れるため、学校の近くに魅力的で設備が整った寮を整備する。 |
| 規模・配置 | 要件 | ・クラス替えができる規模、または団体競技ができる程度の生徒数は欲しい。<br>・最低でも 1 学年 200 人程度の規模が望ましい。 |
| | 交通機関 | ・JR 鳴門線や高徳線の増便を希望。　・汽車やバスの利便性を良くすること。 |
| その他 | 入試制度 | ・中学校による高校入試の出願調整の在り方を改善し、生徒がキャリアを考えた上で本当に行きたい高校を志願できる制度に。<br>・育成型選抜の枠が多すぎることが、生徒が勉強しない一因。<br>・受験機会の創出のため、第 2 志望校まで受験できるようにすること。 |
| | 施設・設備 | ・老朽化している県立高校が多いため、創造的で協働的な学びを実現できる、今の時代にあった教育環境の改善を進めるべき。 |
| | 財政支援 | ・私立高校無償化を上回るような学費支援の充実が必要。 |

○徳島会場（１１月１０日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---|---|---|
| 将来の高校の姿 | 将来の進路選択の明確化 | ・子どもたちが就きたい職業を自由に選択できる高校。<br>・飛び級ができ、大学と連携して理科系の研究、外国への進学が可能な仕組みをもつ高校。<br>・地域の環境を生かすとともに、大学進学や就職など出口がしっかりしている高校。 |
| | 全国に誇れる特色 | ・スポーツ・文化・学力など何でもいいので、全国に誇れるものに特化した高校。 |
| | 多様性と主体性 | ・外国人(特にアジア圏）を多く受入れ、共生社会を作るための資質・能力を育成する高校。<br>・主体的に学び活動できる、文武ともに可能性と能力が高まる高校。 |
| 特色化・魅力化 | 地域への貢献意識の醸成 | ・徳島について研修し、よく知ることで徳島を活性化させる魅力を発信する人材育成。<br>・企業の職場体験を高１、高２段階で複数回できるようにする。<br>・学校の通学日を厳選し、地域活動やインターン、旅行などに取り組める日を増やす。 |
| | 専門性特化 | ・普通科でネットリテラシーやコンプライアンス、マネーリテラシーなどを教授する。<br>・アニメ学科やマリンスポーツ科の創設。　・世界の時流に乗っている教育を行う。<br>・フリーランスや起業について学べるコースの設置。 |
| | 外部資源の積極的活用 | ・各分野のスペシャリストや民間企業を活用する。<br>・地域人材をもっと活用できるように、コミュニティ・スクールを充実させる。 |
| 規模・配置 | 集約 | ・思い切った統合をして、一定の学校規模を維持する。<br>・進学対応や部活動維持のため、最低一学年 4 学級は必要。 |
| | 規模の多様性 | ・規模は、大・中・小とあってよく、県内にバランス良く散らばっていることが重要。<br>・一定エリア内で特色を持たせた学校を作り、普通科ばかりが残らないようにする。 |
| | 配置の利便性 | ・高校生が自分で通いやすい配置（現状からなるべく減らさないで欲しい)。<br>・通学に最大でも 30 分程度で通える学校。　・交通インフラが整っていること。 |
| その他 | 学区制撤廃に伴う責任 | ・予算をかけ、交通インフラや寮を設置し、生徒たちが不利益にならないように。<br>・最新設備の整ったきれいな校舎を。　・築 50 年を超える校舎は早く改築を。 |
| | 教員養成 | ・質の高い教員の養成。　・教員のモチベーション維持や質の確保も重要。 |
| | 多様性 | ・全日制だけでなく、定時制や通信制の魅力化についても検討する必要がある。 |

資料８

# 徳島県公立高等学校の在り方検討会議開催経過

【徳島県公立高等学校の在り方検討会議】

〇第１回会議　令和７年７月３０日（水）
＜議題＞
・本県公立高等学校の現状について
・公立高等学校に求められる役割について
・公立高等学校のさらなる特色化･魅力化について

〇第２回会議　令和７年１０月１７日（金）
＜議題＞
・アンケート結果およびタウンミーティング結果について
・さらなる特色化･魅力化について
・学校規模･配置について

〇第３回会議　令和７年１２月２５日（木）
＜議題＞
・拠点校のイメージについて
・国の動向について

〇第４回会議　令和８年２月２日（月）
＜議題＞
・１次取りまとめ（素案）について
・再編等基準について
・地域の拠点校設置について

【入試制度部会】

〇第１回会議　令和７年８月２１日（木）
＜議題＞
・本県公立高等学校入学者選抜の現状について
・本県公立高等学校入学者選抜制度の改善について

〇第２回会議　令和７年１１月２６日（水）
＜議題＞
・受検機会に関すること
・調査書と評価の在り方に関すること

〇第３回会議　令和８年１月２７日（火）
＜議題＞
・多様な能力を評価する選抜方法に関すること
・高校入試における Web 出願システムについて

資料９

# 徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱

（設　置）
第１条　徳島県公立高等学校の今後の在り方について検討するため、「徳島県公立高等学校の在り方検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置する。

（検討事項）
第２条　検討会議は、次に掲げる事項を検討する。なお、検討結果については、徳島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告するものとする。
（１）公立高等学校のさらなる特色化・魅力化に関する事項
（２）公立高等学校の学校規模や配置に関する事項
（３）その他公立高等学校の在り方に関連して検討が必要な事項

（組　織）
第３条　検討会議は、２０名以内で組織する。
２　委員は、有識者、行政関係者及び学校関係者から、教育長が委嘱する。
３　委員の任期は、第２条に掲げる報告が終了するまでとする。
４　欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）
第４条　検討会議に、会長１人及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、検討会議を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（運　営）
第５条　検討会議は、会長が招集する。
２　検討会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
３　会長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

（部　会）
第６条　検討会議に入試制度部会（以下「部会」という。）を設置する。
２　部会は、委員１０名以内で組織し、委員は、教育長が委嘱する。
３　部会には、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
４　ワーキンググループの構成員は、教育長が委嘱する。

（庶　務）
第７条　検討会議及び部会の庶務は、徳島県教育委員会教育創生課において処理する。

（その他）
第８条　この要綱に定めるもののほか、検討会議及び部会の運営に関し必要な事項は、検討会議及び部会に諮り定める。

附　則　この要綱は、令和７年７月７日から施行する。

資料10

# 徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員

【徳島県公立高等学校の在り方検討会議】

| 氏　名 | 役　職　等 |
|---|---|
| 赤　松　梨江子 | 四国まなび未来ネットワーク研究所代表、文部科学省CSマイスター |
| 岩　本　　悠 | 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 |
| 植　田　　滋 | 四国化工機株式会社代表取締役社長CEO |
| 蔭　西　義　輝 | 公益財団法人徳島経済研究所上席研究員 |
| ○ 金　西　計　英 | 徳島大学高等教育研究センター教授 |
| 木屋村　浩　章 | 徳島県高等学校長協会管理運営研究委員長、徳島県立城東高等学校校長 |
| ◎ 佐　古　秀　一 | 鳴門教育大学学長 |
| 鈴　鹿　　剛 | 四国大学准教授 |
| 住　村　早　紀 | 徳島市・名東郡PTA連合会会長 |
| 滝　川　　尚 | 徳島県中学校長会事務局長、徳島市富田中学校校長 |
| 田　村　康　治 | 徳島県小学校長会事務局長、徳島市富田小学校校長 |
| 納　田　明　豊 | 有限会社NOUDA代表取締役社長 |
| 服　部　あ　い | 独立行政法人国際協力機構四国センターJICA徳島デスク国際協力推進員 |
| 正　木　美智子 | 徳島県PTA連合会副会長 |
| 松　本　賢　治 | 徳島県市町村教育長会会長、徳島市教育委員会教育長 |
| 米　田　若　菜 | 一般社団法人神山つなぐ公社ひとづくり担当 |

【入試制度部会】

| 氏　名 | 役　職　等 |
|---|---|
| ◎ 金　西　計　英 | 徳島大学高等教育研究センター教授 |
| 木屋村　浩　章 | 徳島県高等学校長協会管理運営研究委員長、徳島県立城東高等学校校長 |
| 滝　川　　尚 | 徳島県中学校長会事務局長、徳島市富田中学校校長 |
| ○ 竹　内　　敏 | 鳴門教育大学客員教授 |
| 鳴　川　幸　恵 | 徳島県立鳴門高等学校校長 |
| 松　本　和　基 | 吉野川市立鴨島第一中学校校長 |
| 松　本　賢　治 | 徳島県市町村教育委員会連合会会長、徳島市教育委員会教育長 |
| 山　下　真　司 | 株式会社ベネッセコーポレーションベネッセ教育総合研究所主席研究員、<br>独立行政法人教職員支援機構（NITS）フェローコーディネータ |

※◎：会長、○：副会長、50音順、敬称略

# 再編等基準の検討について

## １　基本的な考え方

「行きたいと思える魅力ある学校」が通学可能範囲に存在し、生徒一人一人の可能性を最大化する教育環境を構築

・各地域に一定の学校規模を維持する高校を配置し、教育の質と多様性、さらには学校規模の多様性を確保

・地域唯一の高校をはじめとする各校の特色ある学びを生かし、市町村等との連携・協働により、地域全体で魅力化と持続可能な教育環境の構築を推進

・拠点校と小規模校を一体的に捉え、生徒が望む学び方に応じた選択肢を確保し、探究活動や部活動の共同実施等により、双方の利点を活かした学びを実現

## ２　再編等基準【例】　※１学級は４０人を基本として考える

（１）地域の拠点校

・地域（県西部・南部）の核となる学校を選定し、全学科を合わせて１学年４学級以上の維持を目指す

（２）再編基準　※分校を含む

・入学者数が複数年連続して、学年全体（全学科合計）で２学級を維持できない（４０人以下）　→　募集停止または再編推進

（職業系の専門高校*については、別途基準を定める）

＊職業系の専門高校･･･農業、工業、商業、水産、家庭（食物･生活文化）、看護、福祉科を有し、普通科系学科が併設されていない高校

（３）魅力化推進校（仮称）　※分校を含む

・市町村唯一の高校で、地域から学校存続のために必要と思われる支援が得られる場合、「魅力化推進校」に認定できる

・入学者数が複数年連続して、学年全体（全学科合計）で一定数（別途定める基準）を下回る　→　募集停止または再編推進を検討

（職業系の専門高校については、別途基準を定める）

※上記基準については、他県事例をもとに作成